物産雑説

松柏科類
常緑類
落葉類

三

A 00
5764

松柏科、常緑、落葉

東京大学総合図書館

No.22

松柏科 喬木 針葉 常緑

通名アメリカマツ 佛名ツガドドウグラス 英名ドウグラス、パイン 一名オレゴン、パイン

学名 アビエス、ドウグラシ

近頃米國ヨリ舶来スル所ノ通名アメリカマツト称スル者ハ佛國ニテ「ツガ、ドドウグラス」英國ニテ「ドウグラス、パイン」一名「オレゴン、パイン」ト称スル者ニシテ我栂樹ノ一種ナリ其枝葉ハ我栂ニ類似シ鳶色ノ毬実小枝ノ尾端ニ孤生シテ垂下ス其状稍長形ニシテ長五「サンチメートル」ヨリ十「サンチメートル」至二「サンチメートル」ヨリ四「サンチメートル」ニ至ル樹高四十「メートル」ヨリ六十「メートル」圍六「メートル」ヨリ十二「メートル」ノ大樹トナル樹皮ノ表面灰色

A00
ゞ764
東京帝國大學圖書
B 45224
東京大学総合図書館

ヲ呈シ老樹ノ皮ハ厚サ三十「サンチメートル」アリ渋質ヲ含有スル
ヲ以テ製皮ノ用ニ供スト云フ其生長ノ速カナル嫩木ニアリテハ
一年間ニ六十「サンチメートル」ヨリ八十「サンチメートル」長スルヲ常
トス稀レニハ一「メートル」以上ニ至ル者アリ米国「カリフヲルニー」ノ
諸山「メキシコ」ノ某地及ヒ「ヲレゴン」近傍北緯四十三度ヨリ五十二
度間ノ地ニ大林ヲナス此樹ヲ伐採シテ夥多ノ船用円材ヲ作
リ各國ニ輸出ス世評甚宜シ英国海軍造船所ニテハ此材ヲ「ロ
ワアースト」(根檣ノ義)ニ専用ス「トップ、コースト」ニハ「イローパイ
ン」ヲ使用ス当所ニ於テ此材ヲ檣材ニ求メタルハ明治十五年ヲ
創メトス其材質硬軟宜シキヲ得テ工作ヲ施シ易シ其大ナル者

ハ長二十三「メートル」角六十「サンチメートル」正角ニシテ白身ナリ
又節ナシ故ニ根末ヲ認ムルニ苦シム但根部年輪ノ厚キヲ以テ
知ルヘシ一「ミリメートル」平方ノ耐力六「キログラム」五六ニシテ耐力
ト重量トノ比較一〇、〇千リ之レ英國ニテ「ロワマースト」ニ専用スル
故ナルヘシ我松ハ一「ミリメートル」平方耐力七「キログラム」〇九ニシ
テ其耐力ト重量トノ比ハ一四、七五ナリ此故ヲ以テ若シ我松ヲシテ
此アメリカマツノ如キ眞直無節ノ大材ヲ得シメハ円材ニ適スル
ヿ遠クアメリカマツニ優ルヲ知ルヘキナリ而シテ如此木材ヲ得サ
ルハ甚タ惜ムヘキ次第ナリ(敢テ問フ我松樹ハ性直ヿ直肥大ノ
樹トナラサル者カ或ハ松樹ノ密林ニカ之シキカ故ナルカ)曾テ

高田商會ヨリ差出タル アメリカマツ一名ヲレゴパインノ見本ニ「シツプ、プランク」(船舶外板)「デツキ、プランク」(甲板ノ義)「ピースデンバー」(船材ノ義)ノ三種アリ其耐力重量各々等シカラス又其質モ赤白等或ハ多脂等アリテ其質ヲ異ニセリ アメリカト云ヲレゴント云フ其名甚タ廣ク天然材ナレバ各種ノ材ヲ一山ヨリ産出スル原ヨリ知ルベキナリ然レ𪜈或ハアメリカマツノ良材ナルヲ知リテ猥リニ俗稱ニ從ヒ木材ヲ注文シ意外ノ者ヲ得ルモノナシトスベカラズ故ニ左ニ米國「ヲレゴン」辺ニ産スル松柏科ノ大概ヲ擧テ参考ニ供ス

ツガ、ド、カナダー

ツガ、ド、カナダー」ハ学名ヲ「ツガ、カナデンメニース」ト云ヒ北米ノ「ヌーヲー、ブリンスウイーク」「ヌーウエル、エコース」地方ニ大林ヲナス樹高二十五「メートル」乃至三十「メートル」ニ至ル材質完良ノ者ニアラスト雖𪜈米國ニテハ家屋及船舶等ノ製造ニ使用ス

ツガ、トリコンヌ

此樹ハ高サ百「メートル」圍十四「メートル」ノ大木トナル「コロンビー、アングレース」「メキシツク」「カリホルニー」等ノ諸山ニ自生ス材質細密赤色ヲ帯ヒ善良ノ材ナリ

ツガ、エラロヒイル

此樹ハ高百尺乃至百五十尺圍四「メートル」乃至六「メートル」ノ

大樹トナル「カリホルニー」ノ北部及ヒ「ヲレコン」地方ノ山林丰ハ廾
樹木ナリ材質軟弱脂質尠ク色白ク割ルヿ難シ葉状四
形ニシテ短シ其色緑ニシテ光澤アリ裏面白色ヲ帯フ小枝ノ
尾端ニ小毬実ヲ垂下ス
以下畧ス　サパン、ア、ブラクテー
明治十七年十二月八日誌　佐波一郎

十六年一月十七 [illegible] 原本 [illegible]

松野氏松ノ話　十五年十二月二日　田中芳男記

海邊ニハ黒松ニ限ル赤松ハ不適当是ハ山地ニ適當セリ
且松楠科ノ樹ハ多クハ根ノ露出スルヲ𦾔ナレトモ夫ニ姦シテ
埋メ行ハ枯レ易シ　今日成程紀州和歌浦ノ松ナトハ
一間モ根上リトナル　又日遠州ノ地獄松ト云フハ砂地ニアリ
如何程据ヘテモ根ヲアラハスニ至ル　是ハ生シタル下ヘ砂ノ次第
ニ集リタルモノニテ原ヨリ松ニ利アラサレトモ天然生ノ勢
ナレハ大害ナキト見ユレトモ今植ヘルニ此ノ如クナルハ必アルヘシ故ニ
今植ヘントセハ根ヲ高クセシ土ヲ被セヘシ甚ハ土ハ
去リテ沢分ニ松ノ本ヲ佳トス　然レトモ濶葉樹ハ夫ニ反ス

根ヲ地面ニ生ズルコト多ケレド松栢科ノ生セザルト大ニ異ナリ
実ニ松ハ根ヲ晒サレテモ生活スルハ花戸ノ盆栽ニ徴スベシ
又栗島松ノ如キ殆ド遠州ノ地獄松ト同理ナラン

一短葉五葉松
右ハ安藝国佐伯(サイキ)郡
吉山村邊ニ産スト雖モ
多分アル者ニ非ラスト云フ
贅言
右ノ種類ハ霜降五葉
松ト唱ヘ羽前国ト羽後
国トノ界ナル鳥海山ニ
産ストナリ

先ハ右御請旁如此ニ御座候也
尚々先生ニも宜敷御傳聲奉願候
西洋人手ニ入候品ハ御座候
右ハ折節ニ可被成下候
至急御願申上候
御面倒ナカラ御取計可被下候
十一月
田中
閣下

過日出京ノ節ハ毎々
御懇切ニ預リ奉謝候
扨テ山林部ニ植物帳
云々御書面之趣承知
仕候然ル處目下調中ニテ
当方ヘ御附候様
時ニテハ其趣ニ付
御承知ニテ御覧可被下候

石上人
近日田他ニ西屋之所
同人ハ宣地を知らがん
乍ナガラ朝鮮土気也ハ
陣中出張りて自生ね
文武ニ而出ニ付ぬ
将共ハ朝鮮ヨリ船来
ニ相見ヘ申候果々
之こ全しきもの、岸ヨリ来
於盛國府相新端棋
斗同勢ヲ分ケ章ら
攸ノ地ヘ差し候此相尚
御前ニ而差上候ト同令哉
当岸ヨリ分ニ一ヶ所
ニへトツ来り候而 字
残テ此勢之自然生候
分テハ気モトナシ頭ヲ操
田氏ハ照子松ト申ス也
名ヲモ力 岩文盛國府

モドウ松

モドウハ地名ナリ文字ハ如何ニ書クカ知レズ

此松ハ肥后芦北郡薩摩堺ノ官林ニアリ但シ路ヨリ東ノ方ハ大ニシテ西ノ方ハ嫩木ナリ大木ノ方ハ十七八間直立シ嫩木ノ方ハ二三百十年新枝ハ五六尺モ伸長セリ以テ成長ノ速ナルヲ見ルヘシ此地ニ多ケレトモ熊本ノ辺ニハ更ニナシ皮ハ松ノ如ク厚カラズ又鱗状ヲナサズ却テ樺ノ大木ノ皮ニ似タリ枝ハ上ノ方ニ多ク叢生ス材ハ赤色多堅重義薄ナリ脂多ク虫蝕ノ患ナシ琉球ノ松ハ此モト同物ナラン伊豆三島驛ヨリ箱根ヘ上ル坂ノ両傍ニアル松ハ外看甚似タリ

右ハ書記局高原氏ニ聞ク所ナリ

琉球ノ松ハ山林局西ケ原試験場ニアリ黒松ト異リ又赤松ト殊ナリ一種ノ松ニシテ葉長ク叢生ス良ニ同評

農商務省

天[illegible]冊

御[illegible]へ追[illegible]
[illegible]此松ハ某実[illegible]
朝鮮松ト名ケ[illegible]
[illegible]

アリシ
田代安定氏曰琉球ノ松ハ其材良質ニシテ渓地ノ良
材タリ樹枝地際ヨリ多ク分レ初ハ又成長ニ従ヒ蔓
ヲ生スル如シ臺湾及交趾ノ松モ同物ナリト云フ
後松ノ説ハ田代氏ノ筆記別ニアリ

按 十七年冬高島鞆之助氏ノ庭ニ老松ノ下ニ於テ[illegible]
ヒテ田氏後松ノ説ヲ聞キ解説ヲ請フ之ヲ良人ニ
黒松ト赤松ノ二種アリ [illegible]又何物[illegible]
後ニ解説スル所ヲ以テ田代氏ノ説ヲ後ニ附ス
十八年二月 田中芳男記

十七年十二月廿一日 田中芳男記

荻窪官林由来書

凡ソ該官林ノ原由ヲ経行植栽其由来ヲ尋ルニ
現今ニテハ不ツ原ト称シ古字ヲ荻窪トカク立木ハ
荻窪松ト唱ヘ有名ノ松樹ニシテ各種ノ松ニ一層
要ナルハ老木ト並モ枝梢ヲ生セズ風様枝梢虫
害等ノ患ナク績年ノ記ヲ延ルニ随ヒ木勢隆盛
ニシテ益々繁ノ色ヲ顕ニ更ニ厚セリ是ヲ古エ
植栽ニ溯リ案スルニ何レノ時カ何レノ処ヨリ種子ヲ採シ
植栽シタルヤ往古ノ事ナレハ息然トシテ判知スル
能ハス然レトモ古人ノ傳ヘ老翁ノ話ル処ニ依レハ
往昔ハ不ツ野ケ原トテ該林ノ四方一円野原ソ

熊本縣

民家僅少ナリシカ元亀天正ノ頃領主深水三河守
宗方植林ノ法ヲ施シ村民ヲシテ之レヲ保護栽培
セシム而シテ年ニ月ニ戸口ノ増加スルニ従ヒ開墾
ノ理ヲ尽シ道路ヲ改良ス其際該林確平ト
シテ原野ノ中央ニ位シ樹木繁茂ス其中ニ道
路ヲ拓キシヨリ茂道山ト名ケタリ此茂道山ノ名ア
ルヲ以テ野原トハ見做シ難シ地理ニ依リ字ヲ不
ツ原ト唱ヘ（野原ニハアラザルノ意ナリ）ト唱ヘ該所ノ一区域内ヲ従古ヨリ
テ今其谷ヲ傳ヘリ依テ村民競争シテ該林
保護ニ力ヲ尽シ愛林ヲ守リ種子ヲ遠近ニ
求メ或ハ苗ヲ移植シ傾ニ其成長速ニシ他ニ比類ナ

キ良樹ノ成育ヲ見ル年ヲ凡ソ四五尺ノ盛延ニ下ラズ、
広莫タルハ松樹ノ森列該郡ノ一ニ秀デ其繁茂
云フヘキナリ九州記曰太閤秀吉軍馬ヲ鳴津ニ
向ケラル、ヤ本陣ハ肥ノ後州水俣ニアリト云ヘリ則チ
陣ノ所是レナリ先陣ヲ月浦ニ張リ兵ヲ茂道山ニ
潜セ（其時ノ歌ニ曰）（鳴津勢失支ニテ秋風ニ水俣落ル木葉哉）（太閤返シニテ寄セテハ沈ム月ノ浦浪）変
然ルニ鳴津勢月ノ浦ニ戦フ忽チ茂道山ノ潜兵起リ
大勝利アリタリト（月浦村字出月ト云フアリ此戦ニ月ノ出タリト赤松ニ千人墓杯古墳千存殘シリト云フ）追シテハ
後陣ヲ該林ニ備ヘタリト云ヘリ年ヲ経テ徳川氏
ノ世トナリテハ広ク鳴ヨリ江戸参勤日ニ月ニ往来
群行セリ果テ該林中道路通行セザルナシ故ニ

該林ハ国境ニシテ必ス往来旅人ノ一目ニ觸シ黙然ト
シテ良樹欝勃ノ繁リベキノ林况美観ヲ極ムル
モノ多シ故ニ益追ノ谷早晩トナリ四方ニ鬱蒼ニ茂ミ
谷木ノ参差ヲ挙テ分茂追枯ハ云フ降テ旧藩中
細川氏治代ノ愛林蕃吏ノ並ニ村民ノ勞力是シニ
依テ是シヲ見シハ木質何ンゾ種子ノ甚否ヲ問ハス
保護ノ厚キニ出ルモノト施リ材質ニ適スルモノト
ニ依シリ加ルニ海風ノ流通宜シキヲシテ枯槁虫
害ノ患ナリ森林樹木ノ衛生ヲ保チ自カラ天然
ノ良質ヲ稜ルモノカ効用貴スルニ餘リアリト
云ベキノ乎

熊本縣

実地踏覆調書

一 地質　壌埴亜砂礫相混入

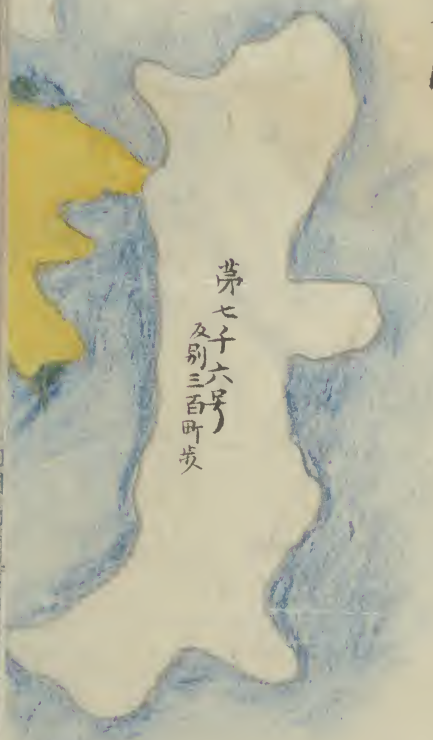
一 地勢　海岸接近凸凹四方面太陽全射入

一 木質　成長生年ヨリ三年目迄平均壱尺四年目ヨリ十ケ年間
平均五尺
現今立木黒松多シ十ノ一分赤松アリ目通壱尺未満
五尺マデ長平均十間トス
但大木ニ成ルニ従ヒ皮落シ俗ニ肥松ト云ヘル多シ虫害ノ
患ナシ皮ノハゲルヿ各種ノ松ニ変リテ少シ

一 運輸　至便

一 効用　営ミ一土木修繕用

肥後国葦北郡袋村字ネツ原
一等官林全図



一 必用 壹ヶ年 五百石

一 周圍 無之

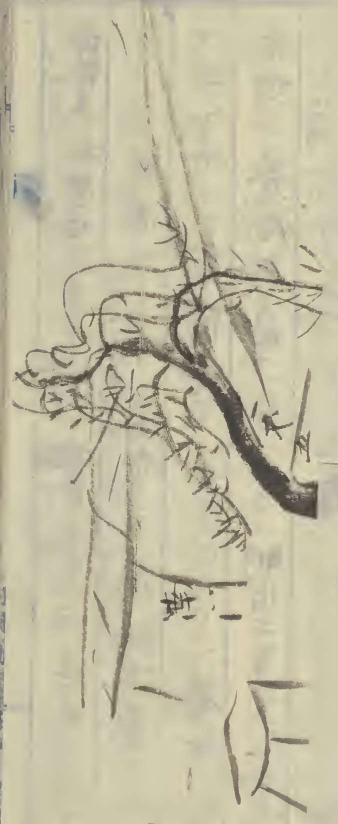
[illegible]

一 年貢 [illegible]

一 材質 [illegible]

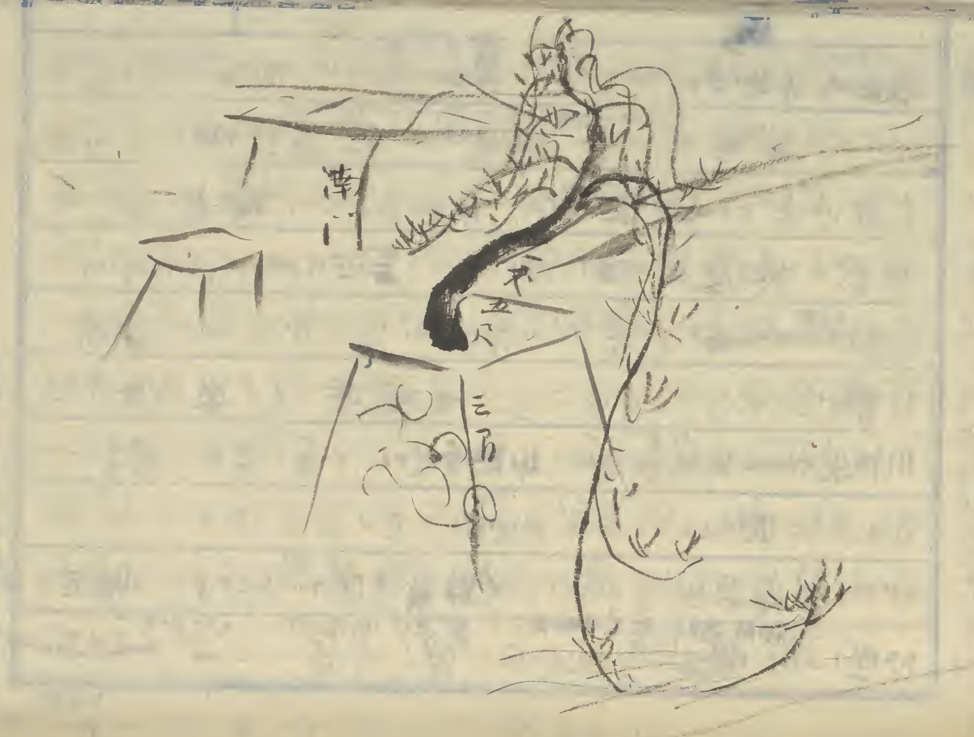
一 [illegible]

[illegible]



第七千八号
反別百五拾五町八畝歩
第七千九号
反別二百町歩
第七千七号
官林
耕地
海
道路
谿川
泉野

有齢松



十三年九月廿三日 片山[illegible]見[illegible] [illegible]田邊[illegible]門ノ松

鳥海山ノ松球

十四年十一月十九日 桜井能監氏ノ話ニ曰ク此頃該地ヨリ松球ヲ贈リ来レ右ハ合スルモノハ由ナレド[illegible]鮮カラサルノ事アリ其後同君ヨリ九果ヲ分与セリ之ヲ見ルニ五葉松球ナリ球ノ長サ二寸五六分経一寸余鱗片凡十許而シテ其種子ハ米粒ノ大サアリテ太シ該地ニアリテハ此樹地上ヲ匍匐シテ又此実ヲ煮食スルハ寿命ヲ保ツトテ大ニ賞スルモノハ由ナリ

五葉松ハ東京地方ニ植ル二種アリ寿原ノ品并経葉ノ者ニ高島五葉是ナリ東京ニテモ結果スレド十全ニ至ラス曾テ信州駒岳山ノ中腹平地ニ見樹ノ結実スルヲ鳥

長ミラ名住[illegible]

來リ啄ムヲ見ル 又駒岳ノ山上ハ五葉松ノ卧スヘキモノ多キ子
アリ人若シ其地ニ至レハ樹上ヲ踏ミ渡リ誤テ足ヲ落スモ
三尺許ノ下ハ地面ニシテ剰ヘ落葉堆積スルヲ以テ甚全ナリシ
右ニヨリ考フルニ鳥海山ノ樹匍匐スト云フニ符合ス
此松球ハ桜井ノ蒲田ヘ帰リ東京ヘ送リ来シ小包ニテ来ル不四個ヲ
得ル内ヘ出ス 又一ツ大坂ニ而ヘ一ツ 屋代章三社ヘ出ス
片山田某宗寺ハ他ノ松ノ毬ヲ採キテ成長セシムル丈ノナリ然ル近郊
ニテ相庭ノ大木ヲ見ニ行 新宿ノ北町辺ニアリシ横須賀ノ辺ニテモ見
大サトヲ送ル 十五年十二月三日

明治十四年十二月三日 田中芳男記

内務省博物館事務所

陸中産
朝鮮五葉松球 組番ヲ印ス
明治十三年十一月 採 [illegible]

聚結松球

十七年八月 横須賀ニ於テ片山某ヘ話シ又見セタリ

多數一所ニ聚結シ松球ハ各地ニ見ルヿアリ 松島ノ松球ナドモ又ノ大
ヰ多リ聚ルモノアリ又岡山県ヨリ見テ来タヿアリシモ一覧ス
然ニ相州横須賀ノ近所ニ属スル山地ハ植ヘ松ハ相州ノ者ナリ
トモ植テ八年ニ及ブ卵明治十年植ヘナリ今高サ丈許
アリ黒松ニハアラズ赤松ナルニ比シ枝多シ葉長ク毬ハ一所ニ集リ聚ル
十餘有千又アリ 我ヒシヲ見ルニ又ト云フ相州ノ松ハ是ト異同如何

陸中産

朝鮮五葉松球縦截シテ印ス

明治十二年十一月採リテ得ル所ノ十三年三月鋸割

松葉烟草 十八年二月七日 富里秀樹

周防国大島郡地方木挽職ノ者頗ル烟草ヲ好ミシガ窮シテ烟草ヲ買得スルヲ得ス止ムヲ得ス松葉揉テ吸烟セシカ十分代用スルヲ以テ爾後追々製法ニ注意シテ今日ニ至テ大ニ善良ノ物トナレハ仕業ノ間ニ之ヲ製シ吸烟シテ更ニ烟草ヲ買得セスト云フ未タ松葉ヲ烟草ニ代用セシコヲ聞ス依テ一袋ヲ請ヒ受帰リシ後考フルニ山村僻地ニ於テ之ヲ製セシムル時ハ大ニ益アランカト愚考スレ圧生理上有害否ヲ知ラス頗ル害ノ有無ヲ指示セラレンコヲ請フ

山口県佐波郡濱方村 秋良貞臣

農商務省

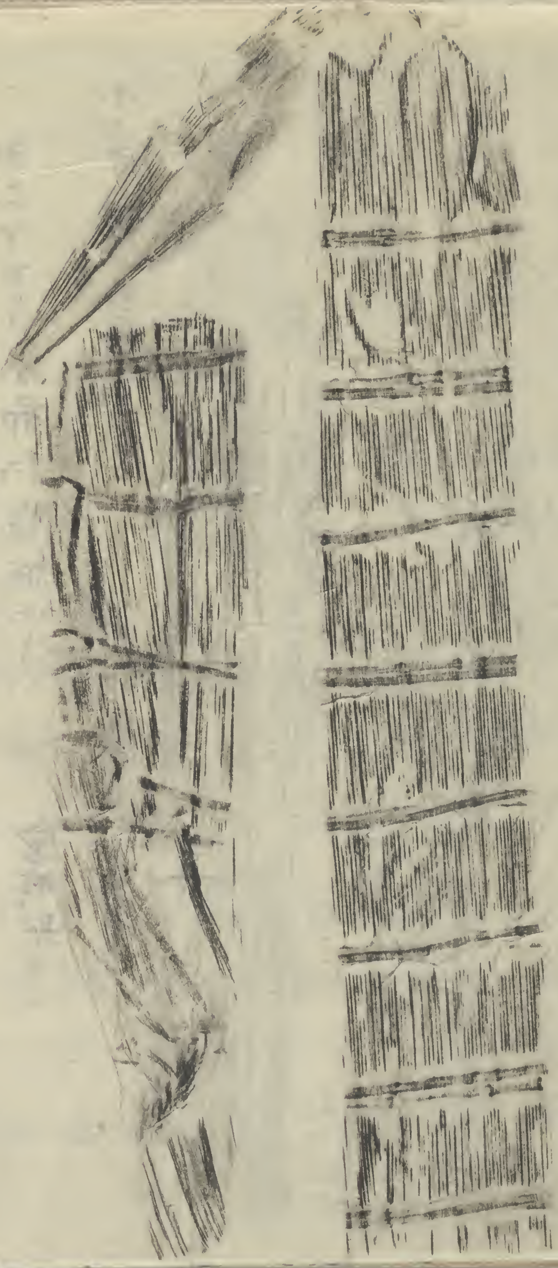
ヤニアカリ　即松脂炬ナリ　宮城縣下

小ノ方　樺ノ裏面ヲ外ニス

脂ノ入　長サ七寸　径八分許

樺ノ末ハ折返シテアリ

最上下ハ樺ノ細キヲ束子　他ノ四子ハ藺ヲ束ヌ



伏在但用害何乃[illegible]亡年所ー乎

番瀝青ヲ製スル法

桐油 荏ノ油ニテモ鯨ノ油ニテモ吉 二斗

極上松脂 皮ト木ノ交ラザルヲ 八斗

右二品ヲ煎シ能ク烊タル時ニ鉛ヲ此位☐ノ屑ニ切タル
ヲ二貫目バカリ其中ニ打込ミ其鉛ノ烊テ一所ニ成リタ
ルヲ視テ半切桶ニ汲テ冷ス

東京大学総合図書館

子ズコハ木曽
[illegible]山ニ産セリ
田子子ズコト称
スト云ヘリ
又日光ニテハクロビヒ
(即クロヒ子ノ一種)
ノ名アリ

クロベスギ 即 ヒメアスナロ 之説

クロベスギト称スル材ハ東京府下木材商ノ多ク販賣スル所ニシテ或ハ杉材ノ暗黒色ナルモノヲ以テ称スルト或ハ一種ノ材ナルト分明ナリ然ルニ甚樹葉ノ如何ヲ知ラザルニヨリテ或ハ子ズコナルベキノ嫌アルノミニ止リシガ今回出品セル加奈川驛下ノ材ニ猶葉ヲ添ヘタヲ見ルニ子ズコナレドモゴロウヒバニ近シ子ズコハ木曽ノ方言ニシテ本草家ノ称スルヒメアスナロニ(ナンバ)羅漢柏(アスナロ)ノ一種ナリ又花戸ノ称スルゴロウヒバハ是近ヒメアスナロノ属ナルベシト思ヒシガ本日小野職愨氏ノ山林局試験場ニ於テ

実按スルニ従テハ ゴロウヒバハ即チ ヒメアスナロニシテ実
ト同シ唯之ヲ緑多ナル所ニ生シテ葉背ノ白色ヲ失シ
且嫩弱扁平ノ葉質変シテ厚クナリ両背同様ノ
看ヲナスモノナルノ從 実按明瞭ヲ信スヘシ 然ルトキハ
山林陰鬱ノ地ニ之ヲ庭戸ニ移植スルトキニ因テ其名
ヲ異ニスル人ヨリシテ遂ニ別物ト看過セシコト是ニ組合同
物ナラカハモ ゴロウヒバハ ヒメアスナロノ変葉ト云フニ過キズ
因テ ヒメアスナロハ一名 子ズコ 桧ツ クロベスギト称スヘシ
今日確定セシナリ
明治十四年四月廿六日
田中芳男記

緑杉質問應答　物産局 十九丁十四葉抜抄
一 えむろ
又 きーしを
此材中心微ク紫赤ヲ帯ヒ脚気ノ香芬木理又質
皆むやくしんニ殊ナラス 益たちむやくしん
ノ菱生ニテハ無之候哉御教示奉願候
十一年五月六日
藤田克三
ヒムロ 東京花戸 ヒムロ 物品識名 緑杉 天門冬ノ条
Retinospora pisifera, Var.?

此松柏科ニ屬スル常緑喬木ハ其葉纖細柔軟ニシテ美觀ナルヲ以テ花戸ニテ栽培繁殖セシムルコト多ク以テ庭園及緑垣(カキ)ノ樹トス

明治十一年五月地理局藤田克三ヨリ材片寸許及生葉ヲ贈ル是ハ駒込妙義阪下ニ在シモノニテ高サ數丈許アリシト材ハ白色微黄ニシテ中心ハ淡赤褐ナリ皮ハ茶色ニシテ外面ハ暗褐色ナリ臘氣少クアリ香氣少シ

此樹ハ是迄變葉ナルヤ否ヲ確知セズト雖氏今次ニ余ガ實驗スル所ノ說ヲ載セテ花柏ノ變化ナルコトヲ證ス

維新二年前伊豆天城山麓湯ケ島村ノ原野ニ於テ高三丈許ノ花柏(サワラ)ヲ見ル其葉所々ニ變葉生セリ之ヲ檢スルニ全ク緑杉ナリ今尚乾腊葉(カハラ葉トヒナムロ葉ト並ニ着クノ品)ヲ藏ス

如此花柏ノ變葉ナルコトハ前ニ云フ所ノ如キノミナラズ樹幹皮材ヨリ葉ノ位置及背ノ白色ナル等全ク花柏ノ徵アリ唯未タ緑杉ノ花實ヲ檢セザルヲ遺憾トスルノミ

明治十一年五月八日

田中芳男記

本文ヲ記シテ藤田氏ニ贈ル所同氏ヨリ實着ノ枝ヲ贈リ左ノ一節ヲ添フ實ニ同氏ノ說ノ如ク其實形全ク花柏ニ差違ナシ

東京大学総合図書館

茲ニ於テ益花柏ノ変生ナルコトヲ決定ス

五月十四日　田中芳男再記

先日緑杉ノ材片及生葉ヲ呈シ教示ヲ請フニ因リ一篇記
文ヲ贈与セラレ始メテ花柏ノ変生ナルコトヲ瞭知セリ猶
記中花ノ実ニ無キノ結文ニ據リ随處ニ探捜シ竟ニ一樹ノ
実ヲ結ヘル者ヲ認メ得タリ之ヲ検スルニ果シテ花柏実ト
繊毫ヲ差ヘス因テ更ニ帯実ノ一小枝ヲ呈シテ以テ感謝ス

明治十一年五月　藤田克三

由利氏曰　廿年十二月聞ク
仙臺居所ケ分ニテ拵阻ツ手ニメ左ノ方之社
地ニアル杉ハ葉ノ形ノ列リ太一尺許
ヲ三丈許綾形ノ異蓋其上ノ杉ト
同シカラス看ナリトミユ

ヒムロ 即セイビンキウム ノ一 大久保一翁ヨリ問ニ答フ称

荷蘭名 Zevenboom ハ 独逸名 Sevenbaum

トイフ 松柏科ニ属シ 常緑灌木ニシテ 欧州ノ南中

ニ生ス 其葉ヲ薬用ス 故ニ旧薬剤書ニ撒比那（サビナ）トイフ

モノ即是ナリ 其サビナ（則）之名ハ 羅甸名ニシテ 即其蘭名

等ノ原ニテアリノ 其樹本邦ニナシ 然ラハ庶戸ヲ経来其

名ヲ呼ブ 樹アラハ 剽掠シ混シテ 却説 其サビナヲ

薬用ニ供スレハ 無毒ニハ 能来ル用ユヘノ外ニ之ニ之ヲ

ナシ 杜松ナルモノハ 其同属ナレハ 同シカラス 杜松ヲ和

名 ネズ 又 ムロ トイフ 然レハ ヒムロ 又 ヒメムロ トイフハ

名ハ台ノ名ニシテ其実ハ全ク別ニシテ サハラ類ナリ
独人上多ハ何カ サハラニ近キト云ヘハ イブキ ビャクシン
等較似寄ノ者ノナリ 右ノ名ヲ混知セハ セイビ二字
兼ヒ台ノ了明カナルヘシ
十九年七月五日 田井記

右清書シ大久保氏ニ遣シタルハ不宜ナリ

イヌガヤ 粗榧

松柏科ノ常緑喬木ニシテ[redacted]雄本唯本[redacted]アリ 諸国ノ山野
ニ自生アレド又植ヲ于搾油科ハ核子ヲ採収ス 其名称
各地一ナラズ 茲ニ其二博覧会出品ヲ次ニ挙ク

茨城県 鳥榧
福島県 ヘッタ 臭榧
三重県 ヒノ 杪
広島県 ヒヨビ 実

概球ニ裏既生涯ガ部土ヲ以テ之
ヲ覆ニ千年家ヲ織ス
脂嚢多クハ球瑶ノ内ニ凝結スル者ヲ見
ルニ白色透明ニテ命ノ如ク的列量
底内ヲ裂クスルヲ得ベシ呂ニ無ク片ハ
甚化ノ賜ヲ抛棄スル者ニシテ実ニ
先ホノ流味ヘモ人ハ本至極ナリ色
土ヲ裂スルニハ多分ノ器械ヲ入全モ
入リ可申）故ニ試験ノ危フル者リ
リ氏空レリ止マン然故ニ天産ノ深ニ人

ナキヲ嘆ズルハナシ苟モ醫師ニアラ
ズヤト存ズルカ
再因ス先生ノ意穏テ今天産
謂ノ人ヲメ試知セシメントスト雖モ未ダラズ又アナ
ガチ西醫其人ナキ而巳ヲ憾ムニ
アラズメ西醫ノ人ガ眼前ニ有用
物アルモ發見セズ全ク心目注浮ノ
個ラザルヲ教戒セラレシ事モアルナラ
ント想象シ尊顔ハ小野氏ナ一禮
セシナリ

一 枯葉實氏写ナリ西爲ニ荒シ置
リハ園圃リ採セ露所ナ持帰リ
一 球ハ乾燥セ雖球ハ火カヲ假テ
成試ヲ製シ見ル有孝使ヲス
テシルシンノ製法ハ何ノ存ニアルヤ 不分
一 鄙ナモノ含ヘ見ル何五子知孫
ナリ
一 種實ヲ解剖スルニ苟柳ノ將アリ
此胚胎ハ成熟ノ後モ此花ヤ又ハ
乾固スル者ナリヤ

コ

イワトトテモ乱葉ノ江海究メ下

手記也

明治十三年十月十七日　荻野嵩倚

田中先生

一

今日寓所ニ帰リシ後樅毬ノ種子ノ數ヲ
算スレバ其樹ノ経過セシ年數ヲ知ルベ
シト云フヿヲ聞及ヒタル信偽ノ程ハ難知
ト雖ドモ試ニ種子ヲ算シタル處其數二
百六十アリ餘リ多分ニ付信用モ致シ
難ク存候得共何分此毬ノ出来シ本樹ノ大サ
モ目撃セザルヿ故ヘ実ニ二百六十年
ヲ経過セシカ而難閲ト雖モ其考ノ程
未タ不能ス

帰寓後和学須知ノ写轉等ノ處ヲ一

讀セシニ墨鏡ニ之ト有リ又植學啓原
モ能シカ鑑以テ的列孟納ヲ製ス
云々ト有之リ蓋ニ存スタルニ孟鏡ハ
所持セズメ候ナル文法ヲ以テ勝油ノ
採シト限居府事中ニテ其侭ニ致
シ有之候

種子及ビ種子ノ萌生セシ心軸ヘ
御覧候

明治十三年十月十七夜認　芳野寄亭

田中先生
机下

孔子ニ向フテ論語ヲ説キ釋迦ニ對シテ
経文ヲ読ルト一般蹂越ノ言ト存候尤
先生ニ御ヲ序フスルノ以テ一寸御咄シ申
上候過リ「ヲカヒジキ」ノ種子ヲ包裹
セシ所ノ膜ヲ徐々ニ剥離スレバ緑モ螺
牛状ノ仁アリ因テ蒸サ英ノ種実ヲ
検視セシ處是亦大ニ形状ヲ異ニスレ共
旋疊巻ス（蝴蝶状ニハアラズ）是レ藜科植物ノ一目
徴ナスベキ歟而科全屬植物綱目藜
科ノ條ニモ胚乳週ヲナスコトヲ云ヘリ

以テ證スベシ先生ハ飽マデ斯説ヲ確
信セラレ小野氏ト此セシ慶門氏ハ知
ラレサル由ニ付一寸此申シ置ク 若シ陥
ハ江海陸ニ亘レリ 但目鏡ノカヲ
假ルニアラザレバ肉眼ニテハ難見ス
因ニ當年四月松平新三郎ガ述ノ
植物綱目撮要ニ黎科植物ハ良
草類中心子ノ部ニ入ル中心子トハ
如何ナル良トハ如何ナル良ナルヤ 明治十三年十一月 芳男
田中先生 函下

槇ノ種數性質効用　田中芳男記

槇ノ材ハ水濕ニ強キトテ桶流シ等ニ用ヒテ貴重スルモノハ羅
漢松ナリ アララギニテ 金松ナリトスルハ然ラズ 羅漢松ノ材ハ用ユル
ニ堪ヘザルヤ 又此樹ヲ信州木曾 加賀 紀伊等ニ産スト聞
リ果シテ然ルヤ 槇肌ハ金松ノ皮ナリヤ 右ノ事ニ関シテ
山林局藤田實三氏ニ問フニ同氏ヨリ對ヘシ語アリ 今夫
ヲ記シテ備忘ニ供ス　十三年十一月九日聞ノ所
金松ハ木曾五木（ヒノキ サハラ ネズコ アスヒ マキ）ノ内ニ
シテ此金松ハ山ノ最高半部ニ生ズ 故ニ他ノ四品ノ無キ山
上ニ多クアリ

東京大学総合図書館

金松ノ材ハ杉檜ノ材ニ似テ白色ナリ 篤ノ材ハ背赤シ 羅漢松ノ
材ハ薄黒クシテ白太赤身ノ差分明ナラズ 水湿ニ強シ
風呂桶ノ流シ 井戸側ノ良中板 水桶等ニ製スヘシ 榧ノ材
ハ皆金松ナリ 千住ノ旧橋材ハ金松ノ材ナリト云
木曽ニテ金松ヲノサマキ ト称ス 故ニ羅漢松ト混シ易シ
木曽川ノ下流ニテ方言ヘコフ子トテ小舟ノ金松材ニテ作ル
金松ハ高野山 其実生ヲ摂州池田辺ヘ持行キテ苗ヲ仕立テ売ル
東京ヘ来ルモノモ即チ其内ナリ
大和本草 槙ノ皮●「マイハダ」ハ木曽ヨリ出ストイフノ而シテ羅漢
松ノ皮ノ如クニ云フモ 木曽ノ者ハ金松ナリ 羅漢松トスヘカラス

古ハ「マイハダ」ノ木曽ヨリ出スコトアリシカ今ハ絶ヘテ出スコトナシ
高野山ノ[?]ノ村七八ケ村ニテ「マイハダ」ヲ作ル人ノ営業人百五六十
戸モアリシ 一ケ年ノ二万俵余ヲ出セ 皆金松ノ皮ヲ剥キ取リ製ス
故ニ樹ニハ傷害ナシ 去ルハ如此スレハ善ク成長スト云ヘリトゾ 其
実ノ幾分カノ害アルヘシト考フ 大和ノ[illegible]十津川ニ自生[?]
山上ケ岳ニ殊ニ多シ
大和ノ吉野郡泥川辺ヨリ金松ノ（之ヲ高野槙ト云フ）金松枝ヲ多ク摘ミ来リテ
京都ヘ出ス 之ヲ土波羅ニテ売ル 京都ノ人ハ七月十三日ニ
目所ニ行キテ金松ノ枝ヲ求メ帰リ 佛前ニ供ヘ猶サカキ
ヲ神前ニ供スルカ如シ 之ヲ生霊ガ来ルコトトス

東京大学総合図書館

金松ノ材ハ少シ檜ノ材ニ似テ白色ナリ 箱ノ材ハ青森ニ羅漢松ノ
前ヨリ松ノ金ク佛ニ関係アル樹トナスヲ以テ不浄木ノ材トナシテ甚
材近キ神ノ事ニ用ユル事ナシ且株ニ之ヲ忌ミ嫌ヘリ
羅漢松ハ伊豆ニ至リ遠州吉田辺ニ多ク植ユ 薩摩ニテ「ヒトツバ」
トモ云建築材トス 琉球ニテハ殊ニ之ヲ貴重ス
加賀越中等テ青森ノ「ヒノキ」即「アスナロ」ノ材ヲ「クサマキ」ト
称シ貴重シ柱梢天井板(七尺)トス 杉材ハ秋田ヨリ行ク 能登ハ
外来ノ材ヲ用ヒズシテ海辺地等ハ檜(アテ)ノ木ヲ育ス(但シ挿木ヲ貴ス)
是ハ生木ノ名ナリ [redacted] 以テ 檜角(五寸)トシ用ヘ尚保ヲ加封ヘ出
セリ 而ニテ加賀ノ人ハ檜ト青森ノ「ヒノキ」同物ナルヲ知ラス
右クサマキノ名アルニヨリ 槇ハ羅漢松(クサマキ)ハ如クナルモ全ク別ナリ 混スル勿レ

本郷金助町七十二番地
田中芳男様
四ツ谷東信町七十二番地 □□□人
郵便はかき
此表面ニハ宿所姓名ヲ限リ認ムヘシ

…野植トスフ由士氏妻ナリ
…蘭ニハ松ナリ 高野松トモ称ス
…生スル由 廣田走三ノ話ナリ
…地ニモ 九州ノ暖地ニ自生スル店
…キニアリト叙ヘ 又下種ニテモ
生ズルカノ挿シテ生スル事ナキニヨル 然ルニ種子ハ蒔方深山ニ
自然生スル理ニ原(モト)ツリ 其ハ生スル事容易ナリ 又挿スニハ
寒中ニナスハ必ス生活ス 但シ凍リ揚ル時ハ生ゼズ 故ニ鉢ヘ
挿スカ又ハ防霜ノ手当スベシ 挿シ方ハ別ニ方法ナシ 皮ノ

前出ノ如ク金ヲ佛ニ関係アル樹トナスヲ以テ不浄木ノ称アリテ甚
扮近ヲ神ノ事ニ用ユル事ナシ且殊ニ之ヲ忌嫌スリ
羅漢松、伊豆ニテ遠州等改処ニ多ク植ユ 薩摩ニテ「ヒトツバ」
トモ云 [illegible] 貴重ス
[illegible]ナロ」ノ材ヲ「コウヤマキ」ト
材ハ秋田ヨリ行ク 能登ハ
[illegible]ノ木ヲ育ス（但シ挿木ト曽え）
[illegible]トシ用ヒ商保ヲ加封シ出
「ヒノキ」同物ナラ知ニ云
如ク十人又 全ク別ナリ 混スハ包

槙ハ用ヒ、マキハ「カウヤマキ」ニ限ラ「マイハダ」ハ即「マキハダ」ニ槙肌」カウヤマキの皮ヲ上品ト致シ候ヘども ヒノキの皮又ハアスナロウの皮を矢張マキハダと号して販売致し（や）縄ニ綯タル上ハ只色の濃淡位のるで甲乙[illegible]
[illegible] 又スヾ竹[illegible]
[illegible]自分ニ[illegible]大ハ[illegible]
十月[illegible] 印[illegible]

金松

金松ハ高野山上ニ多キ故ニ高野槙トナヅケ由ナレド素ヨリ
葉ハ較羅漢松ニ似タレド実ハ以テ異ナルハ松ナリ 高野松トモ称ス
ベキモノナリ 又本筋山ノ高所ニ自生スル由 磨田立三ノ話ナリ
又曰 羅漢松ヲ「クサマキ」トヨブ 該地ニモ九州ノ暖地ニ自生スル
此者ハ花戸ニテ價貴キハ成長ノ遅キニアリト云 又下種シテモ
生ズルモノ挿シテ生ズル事ナキニ見ル 然ルニ種子ハ蒔テ深山ニ
自然生スル理ニ源ツリ 中ハ生スル事容易ナリ 又挿スニハ
寒中ニナスハ必ス生活ス 但シ凍リ揚ル時ハ生ゼズ 故ニ鉢ヘ
挿スカ又ハ防霜ノ手当スベシ 挿シ方ハ別ニ方法ナシ 良ノ

東京大学総合図書館

挿芽採 二年又三年ノ本ヲ切リ地中ニ挿スモノナリ 此挿木ノ実（陰施之之）説ハ山林局長武井氏ノ説ナリ

十五年一月十八日

田中芳男

マルヤ

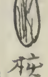
廿一年六月廿六日 [illegible] 芳男 [illegible]

銀桂ノ實

Olea fragrans, Th. (*Osmanthus fragrans*, Lour)

モクセイ（木犀又桂）ニハ花ニ赤黄色ナルト白色ナルトアリ其白色ノモノヲ「ギンモクセイ」（群芳譜ニ銀桂ト云）赤黄色ノモノヲ「キンモクセイ」（群芳譜ニ金桂ト云）ト云又葉ノ居止疎ニシテ狗骨葉ノ如キヲ「ヒラギモクセイ」ト云「ギンモクセイ」「キンモクセイ」倶ニ大樹アレ氏実ヲ結ブ稀ニシテ間々結実アルモ不完全ノモノナルニ東京牛込邑北町一番地内海鉄氏方ニ在ル銀桂（ギンモクセイ）ハ結実多シト聞キ明治廿一年五月十六日同家ニ往キ親視スルニ高サ僅ニ七八尺ノ樹ニテ幹ハ地上ヲ去ル一二尺ノ処ヨリ二三分岐シ全樹ニ完全ノ実ヲ着ク数十顆而メ其実ヲ着クル多クハ枝梢対葉ノ間ニ在リ実ハ *Olea Americana* ノ実ニ似長サ五分許圍一寸一分許（鯨尺ナリ）粉紫黒色外皮軟ニシテ薄ク肉ハ緑

黄色ニシテ甘臭アル液汁アリ（阿剌襪ノ如キ油ヲ有スルナランカ）内ニ一核アリ（目形二分）形下図ノ如ク



核上ニ隧道数條アリ蓋脈絡膜ノ迹ナルベシ核内ニ白色ノ仁アリ仁中ニ
蘂アリ内田氏ノ説ニ一昨年少シク熟実ヲ見昨年ハ見ズ今年ハ多シト云フ
然レバ該樹ノ結実ハ隔年カ或ハ二年ハ多ク一年ハ少ナキヿ柿、栗等ニ於ケ
ルガ如クナラン

明治廿一年五月十六日

藤野寄命記

三重県下紀伊国北牟婁郡長島浦　土井幹夫　質問

紀伊国南牟婁郡三木里村ニ一樹アリ常緑喬木ニシテ往昔ノ
移植ニ係レリ未タ其樹名ノ何タルヲ審ニスルヲ得ス且本邦
固有ノ種カ異邦ヨリ舶齎ノ種ナルカ明晰ニスル能ハス於茲
該樹ノ腊葉ヲ添ヘ敢テ審判ヲ欲ス乞フ幸ニ之カ解説ヲ
賜ハランヿヲ

答

此樹ハ東京ニテビハエフニクケイト云フ物品識名ニケイビニ一名ハマビワ
トアリ羅甸名 *Tetranthera japonica, Sieb.* ト
云フ樟科ニ属スル常緑喬木ナリ紀伊ノ各地ニ自生アリ又九州

南地ニモ産ス方言イシビヤトモ云フ東京ニテハ盆栽ヲ見ルノミ因テ
伊藤壽翁ノ說ヲ叩クニ翁曰此樹（紀州）九州（薩摩）四國（土佐）海辺ノ山
中ニ自生ス（土）伊勢岩戸山及志摩ニモアリ此樹方言一ナラズ ケイジュ
ハマビワ 桂寿果（東京花戸）ノイヌビワ イシシュロウ（九州花戸）又桂寿
花トモ云フ 山桂樹（小野蕙畝翁ノ說） 山枇杷（玲瓏考） 沖縄永良部
産 方言ハウテウギ 此樹効用トテハ無シ古說厚朴ニ充ル者ノモ
アレド非ナリ 上ニ述ルガ如キニヨリ（土）本邦ノ産タルハ勿論ナレド
未タ需用ノ道アラザレ 原ヨリ樟科ニ属スルモノナレバ材ハ
必ス用ウベキモノナルベキモ余ハ未タ見ザルナリ

明治十七年三月六日

田中芳男

紙儀(?)扱

東京ニテハ ビワエウニクケイ と云ふハ 物品識名の ケイジュ
一名ハマビハなり 羅甸名 Tetranthera japonica、
なるが 樟科ニ属する常緑喬木にして 紀州及九州ニ
自生あり 伊勢尾張ニも産するや 四国中国ニも
如何 特別の需用ありや お伺ひ及御白（?）ノ御記載
ありたし 敬具

十七年三月五日

田中芳男

伊藤先生

侍史

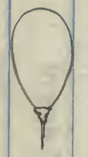
花戸文
慶壽
花戸云

然ルニ四国海辺ノ山中ニ産ス数アリ
岩戸山又志摩ニモアリ 其俗方言
一ナラズ ケイビエ ハマビワ 備前土佐
京ニ花戸 イヌビワ インヒヨウ 九州
山桂樹 山枇杷 薩州土佐 山枇杷 玲瓏
沖縄ニ称良 土佐方言 ハウチワギ
尾州ニ産スルナラバ 知多郡
ノ林中ニアルベシ 深山氷中見当ニ又有也
其樹効用トテハ無シ 古説ノ誤リナラン
ハ誤モ乙ノ非也

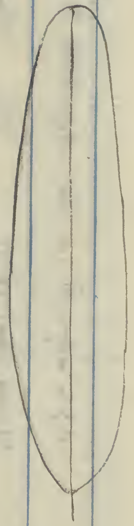
紙 儀 扱

モガシ 鹿児島ノ樹名 但シ樹ノ数ニ少シ

西田久成君曰 此樹ハ該地方ノ自生ニシテ大サ一囲ニ達ス 常緑木ナリ 樹形較ベニタブ シロタブ等ニ似タリ 葉ハ ヤマモモ 又ユヅリハ等ニ似タリ 樹皮ノ外面 ヤマモモノ皮ニ似タリ 熟シテ褐色ノ深緋トス 此実 深藍色殆ト黒色ノ者アリ 熟シテ ヒヨドリ 好ンデ食ス 仁ニ油多シ 材ノ色質ハ詳カナラズ



実形此如状



葉形此如状

日高ハグス 称ハヒノキ 從

田中芳男

マルヤ

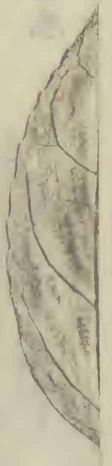
十五年一月二十一日　田中芳男記

此ノ實ハ武田 鹿児島県人 庭木ヨリ 實イ採タルノ也

根ぶとニ シラハイ 一名 ハリミノキ ナルべし

東京大学総合図書館

明治二十二年四月廿六日着 分配 澤田 伊藤 許 福田 田代



背ノ印ス

印ス

尚長キモ短キモアリ
ヲ主脚ヨリ水浸シ
三ツ割レ下ノ方ヨリ

宮崎縣
南那珂郡長
伊東直記

議官
田中芳男様

十五年一月廿二日 田中芳男記

此品實ハ武田 鹿児島ニテハ 庭木トス 實イチゴノ如シ

宮崎県日向南那珂郡長伊東直記ヨリ来レ二種ノ葉

ハグス

常緑木ナリ

葉質色共ニ

コバンモチニ似タリ

葉脈帯ハ赤褐

色ナリ

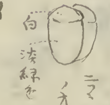
面ノ印ス

背ノ印ス

実大如此 尚長キモ短キモアリ

外皮黒ク表聊カシリ水浸ニ

久シ 仁ハ如此



明治二十二年四月廿日着 分配 澤田 伊藤 芳 富田 田代

方言

ハグス

ハイノ木

宮崎縣

南那珂郡長

伊東直記

議官

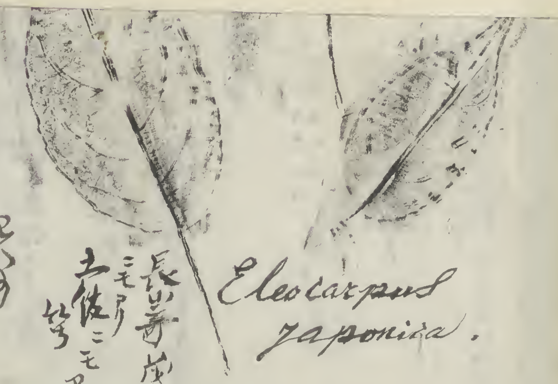
田中芳男様

封筒内資料 東京大学総合図書館

ハヒノキ
常緑葉疎鋸歯
面滑緑背淡緑色
之滑ナラズ
揉ミ白キ汁

実如小大サ較長ナリ
熟紫黒色
中二核仁アリ

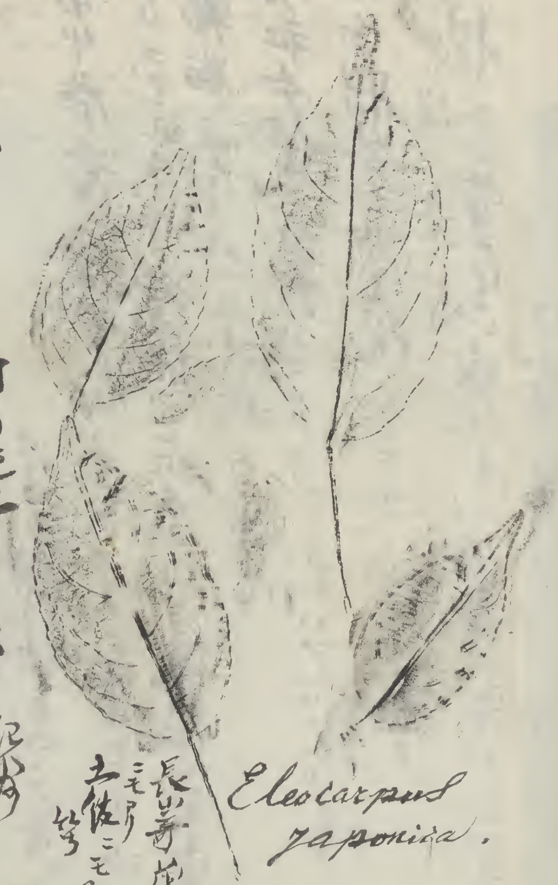
再加 田芳記



長崎茂木ニモアリ
土佐ニモアリ 等
大和紀州
名古屋金龍
甲山花ニ元リ
方言

[illegible]
植物ニ[illegible]

Proteaceae



コバンモチ

オカモチ 紀州

先輩ノ説 指甲花ニ充ツ

長崎 ニモアリ 土佐ニモアリ

Eleocarpus japonica.

ハイノキ 紀州

伊豫鬼ヶ城産

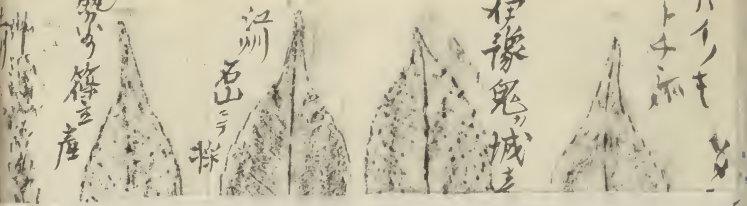
江州 産

勢州篠立産

産地未詳

Symplocos japonica

背 面 背



ツゲ
舶カルトノキト云モノ一種ニシテ一ノ花ニ果
大納彷彿タリ
葉ハ時ニ紅葉ナルコト厚シ
ヰ牛啓蒙ニ指甲花ハマモツアリニ充ルモノ多説
アノコバンモチナリ増説ニモ此木ノ説ヲ揭ケテ之証事
觴梅ニ云ヘト云ヘル其葉大ニ異ナリ
大和本草ニ所謂ハマモクコクモ亦此ハマモツコクト見エ
ハシ示シ臘葉ハ如ク悦コバンモチナルベシ返事
ハヒキ崖ハグス羅斗花
慨セ写シ後所ニ美濃ヨリ出来

Proteaceae

Helicia lancifolia, Sieb. et Zucc.

昨日腸ノ日向産
ハグスレハ和名ニハ
ヤマモガシ一名ナタオレ山印
Helicia lancifolia
ノハモ寄

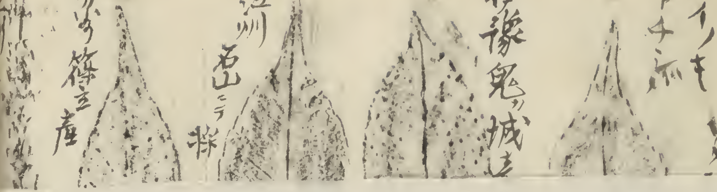
梓 ... 楮 ... 叱 ... 號 ... 之 日 ...

ハ日 花ノ間 之 高 ... 植物 ... 分 ...

Proteaceae

Helicia lancifolia, Sieb. et Z.

東京 又 同所 ... [illegible]



否牛(?)
アノコゾ(?)
鶯梅(?)
大和本(?)
ミミズ(?) 勝(?)
ハヒノキ 檞(?)

呂(?)い 紀分(?) 鶴 麟(?) 射 山
... 昨年 長 雨 梓
... の 豊(?) 山 ... 十り 宜 ...
... は 在り ... 候
四月 ... 日
田中芳之(?) 様(?)
... [illegible]

郵便はがき

此表面ニハ宿所姓名ヲ限リ認ムベシ

田中先生

ユズリハ

楠　一名交譲木

林氏第廿二綱

自然分科大戟科

Daphniphyllum roxburghii. Baill. 羅甸

葉形長楕円微尖頭ノ常緑木ニテ五月花アリ新葉ト共ニ旧葉腋穂ヲ出ス長サ寸余斜上数花ヲ綴ル毎花一片ノ苞アリ梗腋ニ着キ数苞合シテ鱗片様ヲナス経日花穂漸ク長シテ下垂毎苞経萎初テ花躰ヲ露出ス無瓣ニテ萼アリ楕円粟粒大ノ者十二片ヲ連環ス子房ノ微扁大サ黍粒ノ如ク

二箇或三箇ヲ合セル者ノ如シ椎茸柱ナリ出頭三或四出解
紅心皮ニ連リ其色鮮紅多クノ粘液ヲ着ク

明治七年五月七日記

櫻樹ハ花香ノ有無ニ因リ其種類其材品ヲ異ニスヘキ

在京 通常會員 田中龍臣

櫻樹ハ畿内辺ニアリテハ何様ニ限ラス花時ニ至ハ馨氣郁郁トシテ人ヲ薫シ晴夜ト雖モ能ク櫻樹ノ所在ヲ弁識スヘシ然ルニ関東邊ニアリテハ櫻花ノ精香太タ薄ク故ニ都人モ亦櫻花ノ馨気ヲ愛スルヲ知ラザルモノヽ如シ而シテ花ノ光澤モ稍畿内ノモノニ如カザルモノヽ如シ中ハ恰モ欧州ノ薔薇ヲ我邦ニ移植スルハ花ハ猶欧州ニアリシ時ニ似ルモ艶香ハ聊カ似ハヘラモアラザルト同一ナラント思フ右ハ土質ニ因テ然ルカ或ハ気候ノ作用ニ因ルモノカ又木材ノ品位ニ至リテモ猶関東地方ノ櫻ト鎮西奥羽辺ノ櫻ト異ナルカ如ク櫻樹モ亦異ナル所アルカ明示アレコフ

上野公園
桜樹ノ
一、一号
候 本年初若上
申候 櫻類ノ葉若
出来候間山茶採可
被下候 今年モ相妻不
葉ノ有リツコナシ 仕類之

拝呈
先刻ハ此書頂戴
仕候 本年初若上
申候 櫻類ノ葉若
出来候間此落擬可
御覧下候 今年モ相違不
葉ノ有リワコサニ 許類之

東京大学総合図書館

五りゝ有存候

ミタレ彼岸ハ九分以上落葉

彼岸　八分以上

山櫻　七分以上

吉野　七分

八重櫻

若木ノ吉野ハ六分以上

右申上候也

二十一年十一月七日

小森頼信

田中様

執事

[illegible]

第一号

枝垂櫻ニシテ古木ナリ
幹ギノ太サ凡八九尺アリ
但シ花色通常ナリ

第二号

古木ニシテ幹ノ太サ凡五尺餘
但シ枝ハ垂レザル方 花色通常ナリ

第三号

枝垂櫻ニシテ若木ナリ
幹ノ周囲二尺 花色最モ
宜シキ方ナリ

[illegible]

卅一一五ウ
右ナレハ採ナシ

花亭大槐氏始若葉
一株アリ花モ少シホシク異ル
若櫻ハ新様セラレ
甚ハ植替セシテリ
ハ三月ニ於テ人生餘
ナリシ
山世蒙山ヨリ梅ノ根種ヲ
間ヨリ陸奥ノ南殿ハ
梅賀筋ハ其
ノ佛ニ至ヲ
ナリ戊ニ人ハ此レテ

東京大学総合図書館

弐一一五ウ
右ナレハ採ナシ

花屋大概此花者
一株アリ花ヲ少シ小シヌキ置
皆摘候ヘハ
有り〳〵
鈴木
阿部

田中芳男様

呉鶴興記 竹葉手踊
コブシハ歯月 初秋扇
ユウめかハ 皆アルべキ頼歩
宝之作りヲ池白シ
て咲ハつし そハ咲年こ
写さしもし はし何ど採

第一一五ウ
右ナレハ係ナシ

こ疑りし爲 何分宜敷

大国録ニ而テアリキ候

こ書状ヲ以テ申ナバ 何トカ工夫

下々方屋御掌敷

リ殺呑ナバ 事少々早め

已ニ此上ハ 申ナサバ

御所ニも 程りすヾス

○一時ハ 駐路難題

尚昨ハ 当節ニ年

随分御承 下シニ而

先年曰ク 山崎河要工頭

高々ニて

住法リ鍵ノ我家五住

新一一五ウ
右ナレハ様ナレ

拝見[illegible]
さして内書遣[illegible]
学士会院へ[illegible]
[illegible]より[illegible]
不[illegible]へ[illegible]
[illegible]廿八[illegible]

[illegible]四月十五
[illegible]

所在地
創設年月

[illegible]國ノ[illegible]
[illegible]種苗ノ交換[illegible]
[illegible]ノ改良[illegible]培養用[illegible]
[illegible]荒蕪ノ[illegible]調査[illegible]
[illegible]

羽后度ノ林業 乾林採ね 井田(?)西ヘ口ヘアリ

方言 モミジュ樹又モミジュ樹

大字出七日イノ子ヨリ一稜ノ以

鐵手ニテ 桑ノ

鑿形ノ切ナリ

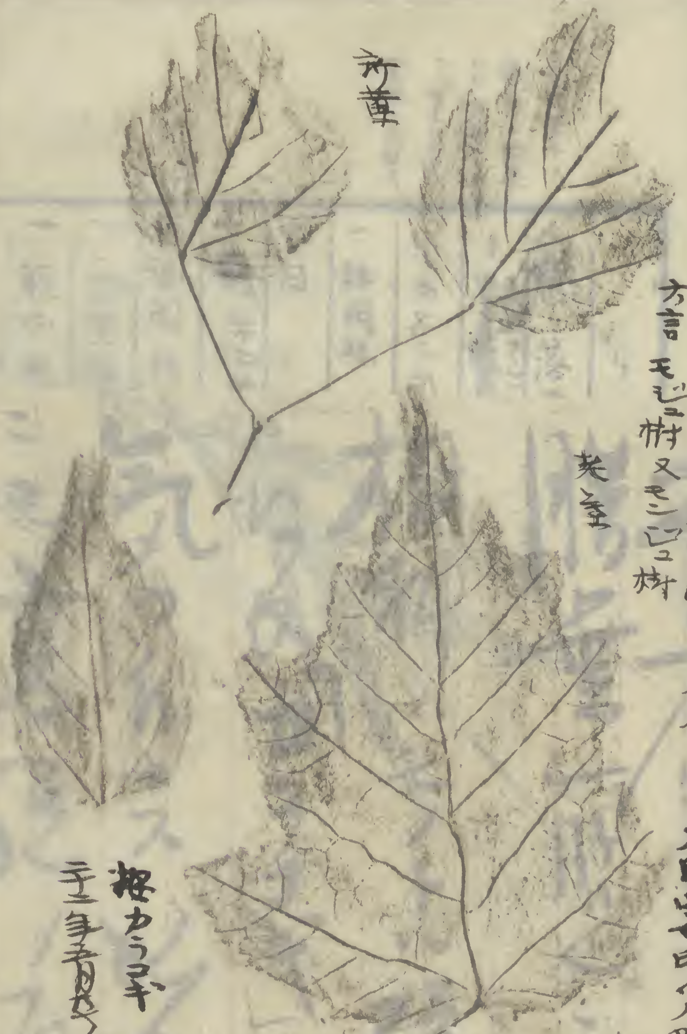
田ト云フ

灰白色ノ粉又

樹形手ニテ

山形名西村三郎

川上居ニテ



楔カラコギ

手工手首巻く

田中記

田中先生

岸野清介

蔓状灌木トハ
纏繞セズ攀登
セズ唯樹上ニ乗
ヘノ性アルヲ云フ即
雲実モ同種ナリ

山藤ハ落葉	ト呼ブ 普通ニ謂フ 藤	ヨリ出品之国	一静岡県	一同	一山 右為	一福岡県	一三重県	一熊本県

老先生
闊葉ノ中ニ入ル識
樹種ノモノトハ確認
シガタ「カラコギ」トミテハ
気ヅカヌカス
ここ高

蔓状灌木トハ纏繞セズ攀登セズ唯樹上ニ乗ヘノ性アルヲ云フ即雲実モ同種ナリ

クマフヂ 一名 クマヤナギ　山藤

山藤ハ落葉灌木ニシテ其幹延長殆ト蔓ノ如キヲ以テ往々蔓草ト[redacted]（普通セラルヽ所）蔓[redacted]（状灌木ト称スヘシ）今回出品スル所多キ内ニ鹿児島県ヨリノ出品ニ園芸館中ノ暈ノ周囲ニ纏ヒシハ長サ九間以上アリ

一静岡県出品　烏藤　熊藤 葛又

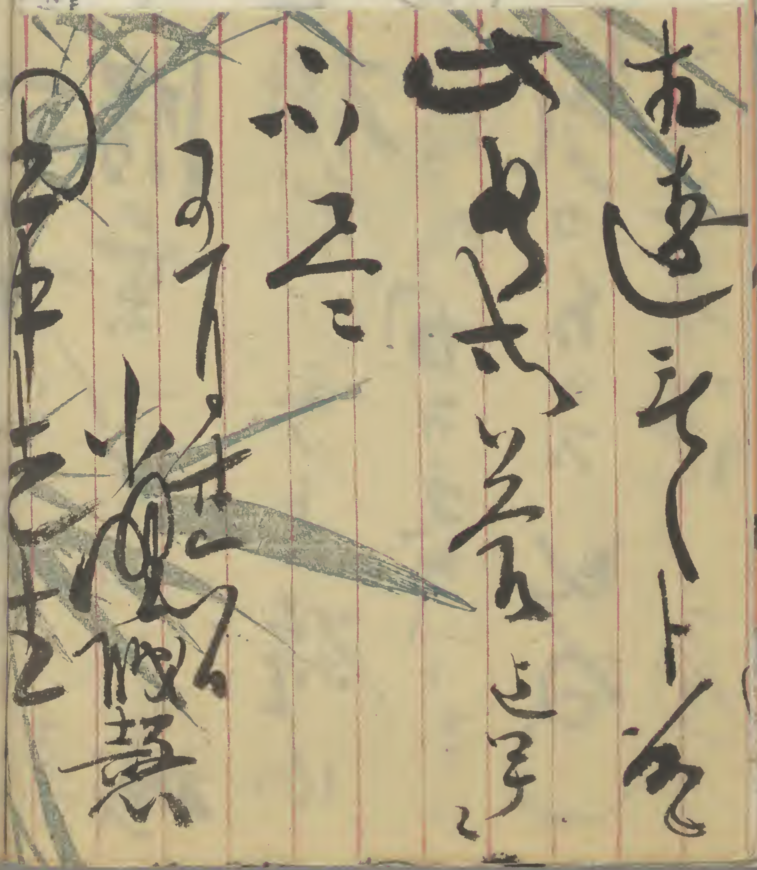
一同　熊葡萄

一[redacted]　右名称 カナト[redacted]未分セ三ヲ〜別物ナリ山藤ニハスヘカラ

一福岡県出品　鉄[redacted]蔓　方言クロカネカヅラ

一三重県出品　鉄藤

一熊本県出品　鉄蔓　黒金蘿　肥後国八代郡柿迫村



一 同　鉄蘿

一 徳島県　黒金蔓（葛）　方言　熊鞭

一 同　黒鉄蔓

一 神奈川県　熊柳

一 同　二号 蝙蝠傘柄　三号 ステッキ　皆同物

青藤ハ　アヲカツラト訓ス

又云蓬萊ノ蔓アリ　是亦訓

梧桐ノ効用

陽其二君　支那北京ニテ　頭髪ヲ収ムルニ用ヘ　梧桐ノ鉋屑一枚ヲ示シテ曰ク　是ハ彼地ニテ　髪ヲ収ムル為メ水ニ浸シ其ノ粘液ヲ出ス　之ヲ以テ　髪ヲ収ム　猶我邦人ノ　ビナンカツラ　ヲ用ユルト一般ナリト　又曰ク　其皮ノ繊維　清白強靭ナレハ　用ヒテ白紙ヲ製ス　支那ノ白紙ニハ多ク　梧桐皮ヲ以テ製スルナリ又其ノ実ヨリ採リタル油ハ　粘稠ナリ　夫ヲ以テ製スル紙ハ即チ桐油紙ナリ　我邦ニテ　油紙ヲ桐油ト云ハ　是ヨリ転シ来ルカ　又其桐油ヲ以テ板塀ヲ塗レハ　腐敗セス　年々塗ルハ　内部ハ縦令腐スモ外部ハ依然タリト　又実ハ　焙リテ食

梧桐ノ効用

スルカ美味ナリト云々

按ニ本邦ニテハ梧桐ハ庭序ニ用ヒ其幹ノ緑色ナルト其葉ノ美観ナルトヲ賞スル為メ文人雅客ニ称用サルヽノ外ハ其効用ヲ知ル人少ク尤モ近頃ハ織絣ニ着目シテ前會ニモ出品アルニ至ル然レモ未タ広用ヲナスニ至ラス又実ヲ食スルコトヲ知ル人少シ余カ経験ニ因レハ行樹ニ最モ適スルナラン又材モ白質美麗ナレハ所用スヘキモノナリ

小野職愨曰若キ枝ヲ切リ水ニ浸シ置ク粘液出ツ之ヲ以テ頭髪ヲ收ムル人アリト

明治十四年四月一日　田中芳男記

明治三十三年三月 [illegible]ニテ 比屋[illegible]氏ノ文部書 [illegible]ヲ世フ又

長崎[illegible]ニテ 取寄セ之ヲ[illegible] 由ヲ[illegible]ニテ ヒナコブラ

ノ太平洋ヲ望ニ於テ 之ヲ氷屋 [illegible]ヲ[illegible] 嚢ヲ[illegible]又

嚢ヲ造ルノ[illegible]ノ[illegible]ト云フ ビナコブラ 村人[illegible] 井[illegible]

三十三年三月三十日 田芳記

桐 [illegible]ノ[illegible] [illegible]セシ ノ[illegible]

嚢ヲ[illegible] [illegible] [illegible]ノ[illegible] 叉[illegible]

陽[illegible]二[illegible] [illegible]ノ[illegible] 支那北京[illegible]

梧桐ノ[illegible]用

拾遺 三十四年四月一日記 [illegible]稿

梧桐ノ皮ハ繊維長ク強シ故ニ能ク水ニ堪ヘ朽ズ之ヲ糸ニ績シ縄ニ用ヒ馬具或ハ縄トナス武州秩父ニテモ之ヲ用ヒ又之ニテ布ヲ織ルモノ桐布ト云フ此布ハ余ガ家ニテモ織リタルコトアリ此布ノ説并ニ此布ノ説モ明治十年刊行ノ洋[illegible]社[illegible]ニ詳ニ載セ置タリ又此樹ハ[illegible]ニシテギリト称シ[illegible]用スルモノニシテ四[illegible]又

隠岐嶋ヨリ出ス先年余静岡ニ徴ル大ナル一株アリ之ヲ伐リタルニ良好ノ桐材ヲ得タリ其質白桐ニ優レリ支那ニハ極メテ巨大ノモノアリト見エ近来清船ノ齎ス梧桐板ハ長六尺ヨリ幅三尺ノモノ価ハ凡百五十円ト聞タリ又其実ハ支那ニテ煮テモ食フト見エ其従騎志ニ梧桐子煮食脆ナ妙則香留三四年不壊一歳不飢不耗トアリ又梧桐ノ自生ハ西京嵐山ノ奥ニ多クアリトイヘリ

【】

前説 梧桐ノ条ニ云

其実ヨリ搾リタル油ハ粘稠ナリ夫ヲ以テ製スル紙ハ即チ桐油紙ナリ我邦ニテ油紙ヲ桐油ト云ハ是ヨリ移シ来ル歟

按ニ桐油ノ桐ハ梧桐ノキリニ非ズシテ罌子桐（アブラギリ）ノキリセノ名油桐ト云

漢名モアリ支那ニテモ桐油ヲ傘ヤ雨羽ニ引クヨシ註シテ以テ供参考

十四年四月二日夜

伊藤圭介

先年明治十二年秋頃横須賀ニ在ルノ日鹿児島人遠武秀行トニフ人ノ話ヲ聞クニ該地方ニテハ田ノ畦ニ多ク桔桐ヲ植ヘテ葉ヲ採リテ田ノ肥養ニ充テ幹ノ皮ヲ剥テ牛馬ノ歯綱(ハヅナ)トナシ其他農家ニテハ大抵桔桐皮ヲ以テ製シテ縄ヲ用ユト聞ケリ

四月廿二

片山直人贅ス

東京大学総合図書館

製紙用鰾(ヘツノリ)木糊ニ梧桐(アヲギリ)根皮ヲ補助スルノ説

土佐吾川郡伊野村　吉井源太　寄稿

従来製紙用ニ鰾(ヘツノリ)木糊ヲ用ユルコトハ人々ノ知ル所ニシテ黄蜀葵(キャウクワイ)、或ハ梨蔓(ナシカツラ)、美男蔓(ビナンカツラ)ノ如キモノ之レヲ試製セシニ何レモ鰾木ニ及ブモノナシ獨リ梧桐根皮ハ昨年マデ八ケ年程試製シ之レヲ用ユルニ甚ダ利益アリ右根皮一貫目ヲ用ユレハ楮皮拾貫目ヲ製造スルヲ得ベシ且又此モノハ寒暖ノ差別ナク適用シ得ベケレバ実ニ製紙家ノ一助トナルベキモノナリ然レトモ該樹ハ山野自然生鮮カナリ人々自由ニ用ユルコト難シ故ニ之レヲ用ヒント欲セハ該樹ノ種子ヲ需メ其栽培ヲ擴張セザルヘカラズ左ニ梧桐ノ名稱解説並ニ其適用ヲ掲ゲ製紙家其人ノ参考トス

名称解説

一 梧桐　一 青桐　一 琴桐　一 青ニヨロリ

一 イ地　大名ハ幡多高岡西部ノ方言ナリ

梧桐適用

第一 根皮ハ製紙用糠水糊ヲ補フ

第二 木材ハ琴ノ琴ニ製シテ良ナリ

第三 樹皮ハ引綱手繰綱及ヒ農馬縄具ノ用トナスヘシ

第四 樹皮ヲ晒シ簑ニ製造シテ經弁ナリ

第五 樹ノ肉無赤キ處ハ香料ニ用ユ之レヲ一切香ト云フ

右高知縣勧業月報第十号抜抄

十六年六月刊行
山林会報告 第拾七号
梧桐皮製造法説明
土井幹夫

十七年三月刊行
山林会報告 第廿五号
梧桐葉烟草審査ノ請求
土井幹夫

梧桐纖維之成ル同
し[illegible]
園用株之かん
乙シヤグ子
ト称えん者い
纖維ヲ取
り得ルて
枝幹の截
りりん根こい
アラサんこへし

荒布橋
麻問屋
金久保辰之助

[illegible]

叢沸鳩

鼻ヨリ出セシ泥膿ヲ吐
一時ソノ泥ニレバ瀧帯用
ノ時ニ燭ヲ欠之ヲ吉キ トロノアワニ
時比梧桐ノ枝幹ヲ截
リ水ニ浸シ且粘液
ヲ以テ糊用ニ代エル者アリ
東京ニ於テ生ミハ現今モ
用ヰルモノ多クシテ甚シキ所
割スノ拭ハ「チリカミ」「スキカヘシ」
ノ類梧桐液ヲ用ヰザルハ
ハ命頗ル強直ナリト
云ヘル者ナリト当ヘ廃ラ
織性ヲ取リテ布ニ織リ
シテハ洋ニ社会ノ中
力ヲ出サシメヨ

徒 島 同 山 千 大 浙 名 大 班 仁 名 長

けさや

いつれ[illegible]

ありしかにも覚へ候

御山岸上り〆

十八条

一り十三小野

田中生

大阪堂島川端裁判所之
楊枝店田は相手ニ而頒致
早々西原当局試験場へ
攫挿取計追テ景況可
寓此得追出来候間左右
申候也

四月二日　山本高

田中芳男殿

追テ不堪筆者追ニ而此間
申候也

本郷区金助町七十弐番地

田中芳男殿

山林局

廿三年[illegible]
[illegible]

田中芳男氏ヨリ田付ニ大阪堂島
川端ニ揚ハ曽テ実地ニ於テ目撃セシ
ニ左ニ如シ
樹幹ノ囲リ凡四五尺
仝　高サ凡十八尺許
葉形ハ楕円形ニシテ長サ弐寸許アリ

藤田克三

新呈

東京上野廣小路並木ノ内　雌柳ノ件

〃〃

芳出し候右ニテ不足ニ候、

今日ハ上野廣小路ノ無条

調候處東側ハ松坂屋ノ角、

同所四本目、横手屋ノ前、

延引ニ可相成と

二ノ巻死

次ノ巻出

云々

田中喜兵衛

錦星

柳ノ姫本松葉ノ為メ
今土出編寺ヘ参り
衣枝中宴ヲ以 慶断リ
壽出シ候若シテ不老ヲシテ宿ヘ
今日ハ上野廣小路ノ菓子
調ヘ以 宴取側ハ松坂屋ノ角
同所四本目、硝子屋ノ前、

逢れに
云しると
二春死
次ノ春ニ成
云し

神奈川宿高札場、井口ノ角、
両側ハ油屋ノ角、蔦屋ノ前
勝部屋ノ角、右之外并、
二枚ニ而、入口ニ一枚
其外ハ無之候
一惣代ノ無候儀ハ別紙之通
西洋来り候ニ付館之用ニ
見合右両日後ニ参り
可申ト存候右申上候也
四月二日
幸輔拝

神谷具高、高、井口ノ角、
両側ハ油屋ノ角、蘭屋ノ前
勝部屋ノ角、右之外無之、

田中様

鶴峯山印

私借ケ柄遠延ニハ
当用ニ付返済可致と
申来候へとも
〆閏迄ノ二巻取
ハ、
判丸ニ捺候て沢ノ表紙
候間この中ニ致し

神谷具斎、斎、井口ノ角、
両側ハ油屋
勝部屋ノ
田中様

小菊半紙一帖両面書
右ハ「門」ノ院ニ不
浅草北寺三ノ是
書物ハトテ貫之不
三テ風船ト名ヅケ申し
「柳ノ雑誌」屋小路
又ハ堀ノ書を
紙ヲ附ケテ一院ニ
ハ書上郡ニも
小「角」通てさせ

安政二乙卯孟春写于古書肆
春田堂 三

[illegible]
三月
二十日
[illegible]

神奈川県高、高、井口ノ角、
両側ハ油屋[illegible]
勝部屋ノ
田中様

[illegible]
二月
[illegible]

東京大学総合図書館

フヂキ *Sophora platycarpa, Max.*

十五年七月バロンアレキサンドルマキシモヰツチ氏ヨリ名称等ヲ質問シ来ル腊葉
ヲ送ルニフヂキナリ 其返日 此学科ハ未タ実用ニ施サヾル尺 工部大学校教授
ダイヘルス氏 試験スルニ 善キ学科ナル趣 八月二五日 答ヘ返ス

腊葉

アサガラ

鯖氏并ミケル氏日本植物書ニアサガラ三種ヲ載ス即チ

Pterostyrax hispidum, S. Z. 義訳 粗毛ノアサガラ

P. corymbosum S. Z. 仝 繖房状ナルアサガラ

P. micranthum S. Z. 仝 小花ノアサガラ

之ナリ

○今供高覧候腊葉ハマキシモウヰツ氏ト質問シタル品ニテ

P. Hispidum, S. Z. ノ名ヲ付シ[illegible]

ニシテ洋名粗毛ノ義ハ此[illegible]

ノ形状モ第二種ノ繖房状[illegible]

○推氏ノ図ハPt. Corymbos[illegible]

実ノ毛卅モ甚シサノ形状[illegible]

ナリ 此品日本名オホバアサカラナルモノ之其他ノ一種即チ

フヂキ 全葉

アサガラ

鯖氏并ミケル氏日本植物書ニアサガラ三種ヲ載スアリ

Pterostyrax hispidum, S. Z. 義訳 粗毛アルアサガラ

P. corymbosum S. Z. 仝 繖房状ヲナスアサガラ

P. micranthum S. Z. 仝 小花ノアサガラ

之ナリ

○今供高覧候腊葉ハ マキシモウイク氏ト質問シタル品ニテ
P. Hispidum, S. Z. ノ名ヲ附シ来リ候 此品通常アサガラ
ニシテ洋名粗毛アルノ義ハ此実ノ毛茸ヲ指スモノナラン其花穂
ノ形状モ第二種ノ繖房状ヲナスモノ(即推氏ノ図)ト異様ヲ見受候

○推氏ノ図ハ Pt. corymbosum, S. Z. 即花穂繖房状ヲナスモノニテ
実ノ毛茸モ甚少ク形状モ前種ノ粗毛ヲ有スルモノヨリ大ニ異
ナリ 此品日本名 オホバアサガラ ナルモノニ 其他ノ一種アリナ

東京大学総合図書館

ガラ

日本植物書ニ アサガラ三種ヲ載ス即チ

...spidum, S. Z. 義訳 粗毛アル アサガラ

...e S. Z. 仝 繖房状ヲナス アサガラ

...um S. Z. 仝 小花ノ アサガラ

葉ハ「マキシモウイク氏ト質問シタル品ニテ

ノ名ヲ附シ来リ候 此品通常アサガラ

義ハ此實ノ毛茸ヲ指スモノナラン 其花穂

繖房状ヲナスモノ(市推氏ノ図)ト異様ヲ見受候

...gymbosum S. Z. ハ花穂繖房状ヲナスモノニシテ

ノ形状モ前種ノ粗毛ヲ有スルモノヨリ大ニシテ異

オホバアサガラナルモノニシテ 其他ノ一種ナリ

推氏第四十七回
記 九千四百三号

東京大学総合図書館

P. micranthum, S. et Z. ニ與ヘ今不詳ニシテ其条下ニ伊藤翁ノ名アレバ別ニ解説ナシ

又寫生図中ニアルモノハ田中房種氏庭中ノ品ニシテ其花穂ノ形状ニ因テ考フルニ普通一般ノ通常アサガラナリ

カト被存候、實ハ同氏ニ問ヘバ毎年結實致セ共、今日迄未野生セズ 其實ハ彼臘葉ノ品ノ如ク密着セズト云フ 此ハ樹ノ勢力ニテ異ルカト存候 右ニテ両種ノ實ノ區別ハ甚ダ分リ兼候得共 此二種ノ實物無之候ハヽ無覆推氏ノ図ヲ乃ハ致候

明治二十年三月三日

徳田佐一郎 拝

田中芳男先生
閣下

二百大學標品目録七八 [illegible] ノ所ニ用ヒタリ

一昨廿九日雲朱雨雲朱耗
しカ是ナル軟ノ所写ニテ拾荒
本草及植物名實図考
ノ二冊ニ摘テ雲朱ヲ是トスト
申上置候 帰宅之上ノ

P. micranthum, S. et Z. ニ與ヘ今不詳ニシテ其条下ニ伊藤翁
ノ名アル処別ニ解説ナシ

又写生図
形状ニ因
カト疑ウ
今見ル
ヲヨフ 此
區別田器
図トアルハ
明治
二百大学標

新組ヲ見ルニ格致鏡原
ニ岩菓ニ作ルトアルヲ以テ今ハ白
画同様ニテ本草ヲ倚ラ究メ
日本本草啓蒙 北葉裏ニ之
物傍ヲ控ヘシ雲岩菓ニ作ル
其文相甚本草ト同シ其
又華牙花ホ傍ト称ス 亦
雲岩菓ニ作ル 其文亦大白 其
又和名ミテハ写書ナル相甚
本草下 和名 及

P. micranthum, S. et Z. ニ與ヘ今不詳シテ其条下ニ伊藤翁
ノ名アレド別ニ解説ナシ
又写生図一
形状ニ因
カト疑ナ
今見ル
ニアリ此ル
區別困難
困ナリハ
明治
言大學標

和ノ名ナシ 相[illegible]
草画稗ノ和ハ雲ヨ条ニ
和ノ名合ハ其ノ間アルヲ
実ニ其正ヲ定メ難シ
困ラシム諸州ノ西中枝
甚[illegible]ノ目[illegible]
[illegible]庫ノ間[illegible]
[illegible]
又[illegible]ノ目見[illegible]

P. micranthum, S. et Z. ニ與ヘ今不詳ニシテ其条下ニ伊藤翁
ノ名アレ氏別ニ解説ナシ
又写生図 [illegible]
形状ニ因 [illegible]
カト疑ガ [illegible]
今見ル [illegible]
ヲフ 此 [illegible]
區別困 [illegible]
困ソアリ [illegible]
明治 [illegible]
二百大学 [illegible]

〆名実ハ二ツニ別ツ

雲葉ニ作ル者

漢
梅(?)鏡面 [illegible]
華東花木珍玩考

和
梅花本草和名選 [illegible]
梅花本草通釈
但シ此ニ於テハ未詳トアレドモ [illegible]

雲葉ニ作ル者

漢
梅花本草 [illegible]
植物名実図考

和
梅花本草 [illegible] 蘭山 [illegible]

東京大学総合図書館

R. micranthum, S.Z.ニ與ツ今不詳ソ其条下ニ伊藤翁

ノ名アレド[illegible]別ニ[illegible]洋[illegible]

又写生図[illegible]

形状ニ因[illegible]

カト疑ス[illegible]

今見ル[illegible]

ヲ[illegible]此[illegible]

區別因為[illegible]

因ヲ入ハ[illegible]

明治[illegible]

云大学標[illegible]

杉(?)某氏和名学(?)譯説

右二巻(?)日未(?)詳[illegible]和名(?)[illegible]

一昨ハ餘リ寒気(?)ノ為(?)[illegible]出テ云ニ木ノ説ノ為(?)[illegible]此テ当(?)[illegible]云々

小月廿六日

小野職(?)[illegible]

田中芳男様(?)

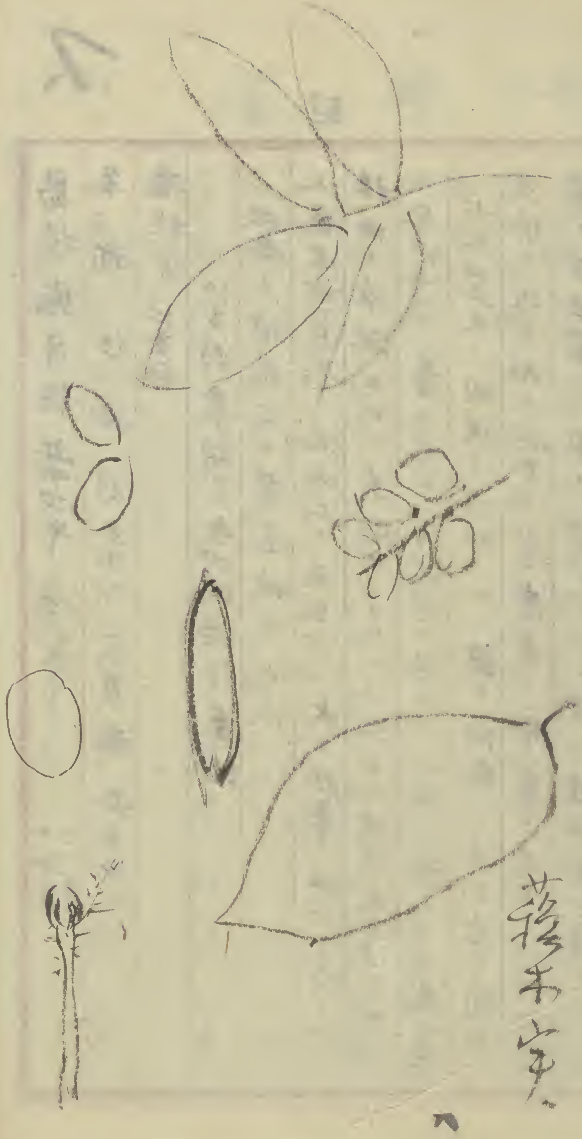
P. micranthum, S. et Z. ニ與フ今不詳ニシテ其条下ニ伊藤翁
ノ名アレ氏 [illegible]
又寫生図 [illegible]
形状ニ因 [illegible]
カト疑ヲ [illegible]
今見ル [illegible]
ヲフ 此 [illegible]
區別田 [illegible]
国トアリ [illegible]
明治 [illegible]
言大學理 [illegible]

植物學譯説
第二巻已未詳ナリ
田中芳男
[illegible]

[illegible]

ヤブサンザシ

雲實、員實、員田ナリ ○ 天豆



薬米実

東京大学総合図書館

青森地方モアレ𪜈 陸奥二戸郡 行路ノ辺ニ殊ニ多シ 葉面紫
色トナリ 半落チ 実紅熟シテ甚愛ス 殊ニ小灌木ニシテ 多子ヲ結ベバ
既ニ美観アリ 実ハ フサスグリ ニ似テ 楕円形 且味 微甘ク 後苦シ 到底
美味ナラズ 故ニ 毒アリトシテ 人食ヘテモ 又方言アルベケレド 問ヘトモ人ハ
無ト答フ

ツリウメモドキ　仮称

明治十九年八月十七日下野塩谷郡塩原村字平井沢ニ至リ渓流上山根ヘ
於テ高サ六七尺ノ一株ヲ見ル樹下ニ在リテ藤ヤ又ノ如ク其枝端ニ互生セリ
葉ハ互生シ心臓形光澤鈍鋸歯アリ長サ一寸以上一寸半許ヲ常トス一見
シテウメモドキニ彷彿タリ葉腋ヨリ一條ノ細長柄ヲ垂レ末ニ四実ヲ結
ブ梗ノ長サ一寸ヨリ一寸半許中央ニ一節アリ但シ一柄長ニ一実アルト共
節ヨリ分岐シ二実ヲ結フトアリ其実ノ形ハ正圓ニシテ外皮朱紅色
ウメモドキノ如ク鮮麗ニシテ[illegible]ナリ其大サ一実ヲ結フ者ハ径
三分ニ近キモ二実ヲ結ブモノハ二分ニ充タズ頂ニ小(一)点アリ蕚
ハ密着シテ平ク五出又ハ四出八出等アリ内部ノ肉ハ白色

軟脆ナリ 長形ノ小種子五又六粒アリ 此実ノ色ウメモドキノ
如ク美ナレモ 甚敷疎稀ナルニヨリ壮観ナラズ
同十九日 同村字寺山ニ於テ 又一樹ヲ見ル 是亦高サ桐似色レモ
彼ノ如ク樹陰ニ蔽ハレザルヲ以テ 実ヲ結ブ丁較多ク 粒ノ大サモ
勝レタレモ 二実ヲ結ブモノヲ見ザリシ
前年ノ如ク 全クウメモドキノ形状ニシテ 甚ダ実ノ柄長ク曲ル
ツリバナノ実ヲ垂ルニ似タルニヨリ 仮ニ名ケテ ツリウメモドキト云フ
太寺山ノ岳ヲ枝折リ 罐ニ入レ 氷ヲ添ヘ 東京ヘ携帰リテ
伊藤圭介翁 小野職愨君 并ニ 博物館普ニ示ツ皆
創見ノ答ナリトセリ

然ルニ 露國マキシモウイチ氏 日本産イレクス類ヲ集メ之ヲ挙
ニ各種ノ圖説アリテ 此品ヲ載セ 長崎ノ冨士山ニ採リテ
ヲ云ヒ 又九州ニモアリシコトヲ述ヘタリ 而シテ之ニ羅甸名ヲ附シ
Ilex geniculata Maxim.（日本名 [illegible]）ツリウメモ
ドキ トアルコトヲ 徳田伕一郎氏ヨリ示サレタリ 且此形容詞
ノ義ハ 其柄ノ節[illegible]ヲ徴スル由ナレモ 今余ノ験スル所ニテ
ハ 二実アルモノヲ見ルニヨリ 果ニ節アルニ非ズシテ 分岐スルノ
節ナリ 蓋スルニ 花ノ咲クハ 必ズ一柄上分岐シテ二花ヲ開キ
モ 実ノ熟スルハ 一個ナルモノ多キニヨリ 空ク節ヲ遺スモノカ
暫ク疑ヲ存シテ 識者ヲ俟ツ

東京大学総合図書館

又茲ニ一ノ記スベキコトアリ 此乾腊葉ハ曾テ濕地ニ於テ單
ニ紙間ニ挿ミ乾スモノナレバ其形ノ不十分ナルニヨリ之ニ水ヲ
灌ギ柔軟ナラシムルニ甚遅リキ 剖分ハ暗褐色ニ変ジ恰
モ生草ノ腐敗スルガ如ク甚ダ醜態トナレリ 因テ試ニ他ノ
一葉ヲ水浸スルニ茶色ノ液ヲ生ジテ暗褐色トナレリ 前ノ如シ
要スルニ是ハ何レモ此種ノ特徴ナルベシ
明治十九年八月六日 曾テ記スル所ヲ増訂シテ記スモノ
シ尚ホ一項ヲ加ヘ 九月四日記ス
東京ニ於テ 田中芳男

敬白 尊説ニテハ フヰミヲラ氏書中ニ フウリンウメモドキ 田ノ名
称アルガ見エレド同書ニハ和名ナシ此和名ハ穀樹四既旬名詮義
ノ節ヲ以テ徳田氏ニ ilex Jenticulata, Maxim.
ニハ田代氏筆記ニモ植物名彙ニモ フウリンウメモドキノ
称アリト出セシガ其他ニ混雑ノ疑アリ 考証モ相成
シニテハ急之取ハ愚筆ニテ右一寸申上置候也
明治十九年九月十四日
[illegible]
田中先生

ツリウメモドキ
実付ノ枝

下野塩谷郡塩原村字平井沢産

乾腊葉ノ面ヨリ印ス

ツリウメモドキ葉ヲ水
浸セシ[illegible]浸シ
久シク[illegible]
[illegible]

[illegible]

同前

背ヨリ印ス

大ナル一葉ヲ背ヨリ印ス

小一葉背ヨリ印ス

東京大学総合図書館

天長節ノ夜

ヒトツバタゴ

昨夜伊藤圭介翁ヲ訪フ翁曰本日栗本鋤雲君ヨリ得ヘ所ノ樹葉アリトテ示サル是ハ栗本君ノ邸ニアリ従来ヒトツバタゴト称シ来ル此者ハ青山六道ノ辻ナル武家ノ庭ニモアリ大木ナラ子ドモ外ヨリ見ユルナリ云々之ヲ熟視スルニ成程葉ハヒトツバタゴノ如クナレド実ハ大ニ固カラズ却テ樟ノ実ノ如シ ヒトツバタゴハ秦皮ノ実ニ似タル実ナリ然ラバ是ハ何ナルヤ此研究ノ上此後アラバ予サシメタシ又此枝ノ図ヲ描シタルモ猶ハ伊藤翁ヘ且教フベキモノナレド実ハ一粒ハ割セザレバ何数ナルヤ知レズ

[illegible]

ヒトツバタゴニ更ニ附シ
ノ枝来ル然ルニ
青山之以ハ青山六道
辺ニ在リシ樹ニ
原ニテ移リ来リ候ハ当
園中ニ植ヘ在シ
如ハ甚ダ山中ニ在リシ

一いちこ
一たうち櫻
秋田地
だ櫻花
ゟ所ニ
豊山
一花瓣
一花瓣
一花瓣
今年ハ
横向き

青山六道ノ辻辺ハ天産輝気ノ内知ル人ハナキヤ或
実地ニ就キ取調ヘルモヨシ
伊藤翁曰ヒトツバタゴ トネリコ 尾張名古屋ノ近辺
ニモ東国ニテ恵善ノ山ニアリ 生年 水谷豊文先生ニ
従ヒ自分壮年ノ比同志数輩ト共ニ同所ニ至リ始テ
此樹ヲ得タリ 実ハ秦皮ノ如ク葉ハ楮柔ナラズモ
ヒトツバタゴノ名ヲ水谷先生命セラレタリ トネリコ
按ヒトツバタゴ 林氏本草ニ図アリ Chionanthus Zeylanica ト云アリ 英華字典 Fringe tree 縫樹トアリ
秦皮ト同ク椬骨科ニ属ス

明治十八年十二月十六日

田中芳男

青山ニ…
実地ニ…
伊藤谷…
十七…
従ヒ白…
此樹ノ…
ヒトツハ…
拇ヒトツ…
奉皮ト同…
明治…

花…
一いちこ…
一たうち櫻…
秋田地…
だ櫻花…
多所…
豊山…
一花瓣…
一花瓣…
一花瓣…
八今年ハ…
横向き…

花の方向を見て歳の豊凶をトする法

一いちこ　秋田地方々言

一たうち櫻　青森地方々言

秋田地方に於ては五六月比花を開き、花の形ち酷だ櫻花に似たり是れ青森縣邊に於て櫻の名ある所以ならん此樹大木あるを見ずと云ふ

豊凶をトする法左の如し

一花瓣上に向て開くときは旱歳

一花瓣横に向て開くときは風歳

一花瓣下に向て開くときは雨歳

今年は花瓣多く上に向ふ故に旱歳なるべし偶ゝ横向きたるも見ゆる故に風吹くこともあるべしといふ

右秋田縣書記官曾我部道夫話

名テザクラ更調ヘ
義未定ナリ漸ツ
捜索リ得遂ニ如左
辛夷(コブシ)ノ洋種方
言ニテ出雲ハ東山
記録中ニ載セ有シ
ノ條ニ新撰字鏡
シ引キ和名ヒキザクラ
洋種ノ所ニ方言シキザクラ
ドアリ又同一種大花ノ
モノ有オホコブシト ツ南部
方言イトヽキザクラトアリ

タウチサクラノ名 本渫
備中ニテハ是ヲ當
此邦ニテハ鞘中上ニ[illegible]
立ツ[illegible]
小濃 稲葉
田中[illegible]生

ツネリテ根湖ノ 鳥白
実ハ四国ニ(モアリ) 生
家ハ石注又しらす
国土ノ草木ト称スルハ
和訓栞ノ語メシトシ墨
和訓栞 和訓類 本草[illegible]

夕顔ノ説ハ大和本草ニ記
等ニモ出テ又之ヲ菜（[illegible]国土ノ草子ト称スル本ニ記アリ）
食ニスル事ハ本草一家
言及花彙ニ在リ
尚後詳説可入
[illegible]

[illegible]

故ニ[illegible]等ノ一名アリ又実アリ油ヲ取ル故
ミアブラニ アブラキ等ノ名モアリ又地錦抄
[illegible]ニハ沈香木ノ名モアレバ本材ニハ香ヲ
[illegible]此樹大戟科ニ
属[illegible]毒ナル故有毒物
ナラント想フテ国土ノ草子[illegible]等ノ称アルカモ知ラズ

レラキハ一名コリドノクハシ　チシクハ　キタシホヘ伝フ Euphorbiaceae
即大戟科ニ属スル高サ丈許ノ落葉木ニテ学名ヲ
Stillingia Japonica, S. et Z.
(Excoecaria japonica (S.) muell)
ト云　葉ニ大小アリ小ナル者ヲコレラキ　ト云 無節樹(?)
産ニ即チ志葉ニニ風(?)趣アリ　此樹ノ皮色(?)白ナル
故ニレハダレ(?)ト唱ヘ一名アリ又実ヨリ油ヲ取ル故
ミアブラニ　アブラキ等ノ名モアリ　又地錦抄ニ
國村熟租(?)ト沈香木ノ名モアレバ木材ニハ香ヲ
有スル験未ダ試験セズ　此樹大戟科ニ
属シ[illegible]田村ノ如キ樹ナル故有毒物
ナランド想フ　国土ノ草子　瑜草果等ノ称アルカモ知ラズ

タ個月[illegible]大和本草観
有[illegible]ニモ出テ又之ヲ葉
(国外国土ノ草子ト称スト云ニ存リ)
食ニスル事ハ本草一家
国土ノ[illegible]

之ヲ果食ニ充ツル事本草ニ云ル乃花実果ニ記
スルノ如テ云ヘシガ無毒ナル如ナレモ化学ニ於テ未ダ之ヲ試
験ヲ経ザレバ明ニ毒ノ有無ハ明記ニ難シ
只参考ノ為メ前件ニ本草綱目會識及花彙
本草一家言ノ説ヲ載ス
明治元年十一月廿日 寛斎

寛斎云桂字誤
字ヲ試此ヤ脱誤
アルナラン

○本草一家言第五巻波羅得条云和名國主菓子一名新羅錢葉
似桃葉衛矛秋後紅葉可愛産地國者最極或以充果
芽觀土人採其実人採油其子亦以三果同其常炒食之
茶或鳥啄也然葉果形大不同殊非同類也法華疏
曰三聚果唯識疏曰悪人取之是也三名一物也採油
事亦出仙台和邦称國主菓子為有三物相子
及海松子 波女曽保倍 同名異物也宜辨之

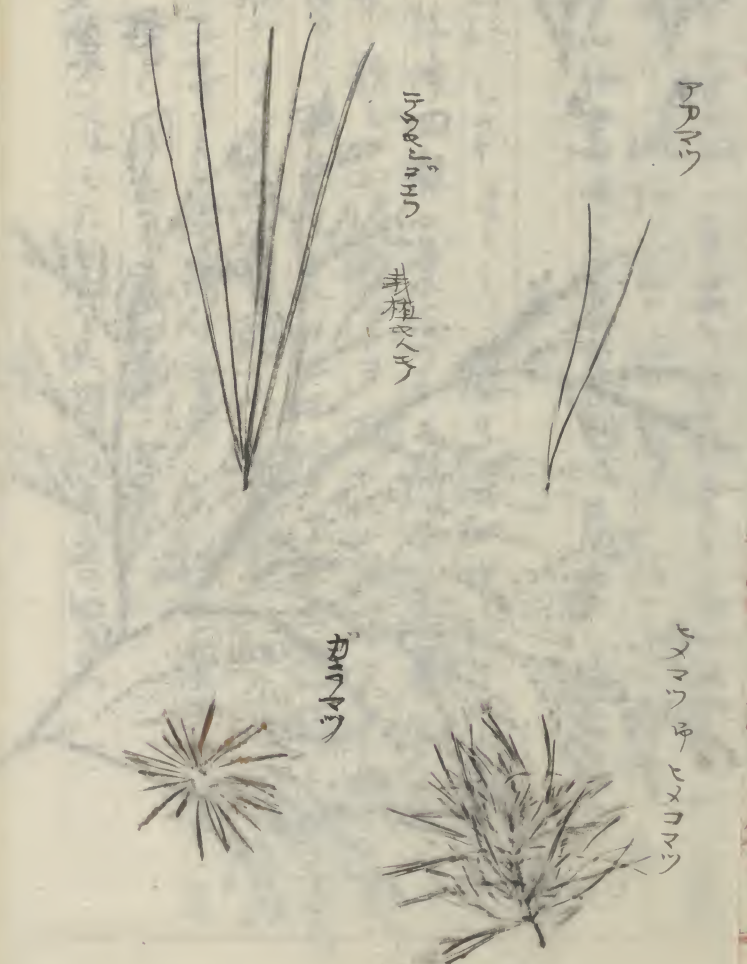
○本草綱目會識第十一巻云波羅得和産知レズ松岡先生
シラキニ充ツ未的切シラキハ國土ノ菓子一名キタンホヽ又
菓 仙臺ト云 此ハ深山ニ多シ文餘ニナル葉ハ柳ノ葉ニ似テ丸
リイセワナリ白汁出ルモノ也タンホヽノ名アリ三四月ノ比
花長ク穂ニナリテ二三寸栗ノ如ク黄白色実ハ續隨子

ニ似テ大ナク茎細ク実無ク秋ノ紅葉モ亦美シ此実ハ一ツノ莢
ニ三ツ粒アリ此仁ヲ取テ油ニス此油ハ粘ナキユヘ時計ノ車ナド
ニ挟ミヨシ仙書呼ニ衆草剛ニ瞿尽ナシ堅罷得ヽ光
リ難シ

○花[illegible] 木之三 之十五 シラキ コクドノリハン 處々深山中コレアリ樹ノ高サ
丈餘枝條四散ス葉互生ス形ハ柿葉ニ及ビ映
日果葉ニ数シテ蒂軟コレヲ折レバ白汁アリ初夏夜
枝ニ花カリ穂ヲナス長サ二寸許ナリ黄色頗ル蕭宗
穂ニ数スワノ実下垂ス形チ千金子ニ似タリ圓ク三
稜中ニ三子アリ各房ヲ苛ラミス採テ果食ニ供シ及
ハ油ニ採シ用シテ鐵器ニ塗ル
寸ノ飯毎葉子ヲ淀モ大ハ山巨大ヲ以テ之ヲ異ス

今論ノ説

檜枝岐村ノ名
ヒノエマタ
ニラビ
葉尖鈍
背白濃
幅廣ク長シ
タウヒ 一名マツハダ
葉尖鋭
背白淡
幅狭ク短シ



アカマツ
テウセンゴエフ
栽植セル者
ガラマツ
ヒメマツ即ヒメコマツ

ヒノキトアルハサハラ也

ベニツガ

別ニ白ツガアルヘノ名

東京大学総合図書館

神戸市所植 コノテカシハ

ヒノキ

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館